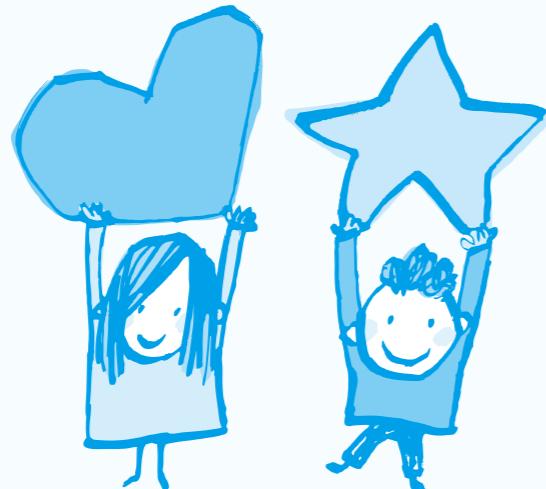


公益財団法人 がんの子どもを守る会
2024年度事業報告書

2024年4月1日～2025年3月31日

CCAJ ANNUAL REPORT
Apr.01,2024～Mar.31,2025



公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12

電話:03-5825-6311(代表)

03-5825-6312(相談)

<http://www.ccaj-found.or.jp/>

がんの子どもを守る会

検索



CCAJ

公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

CONTENTS

 理事長あいさつ	1
 組織概要	2
 会の歴史	4
 2024年度収支報告	6
 2024年度の事業概況	
①療養援助事業	10
②相談事業及び関連事業	11
③研究助成事業	16
④総合支援施設運営事業	18
⑤小児がん・難病対策	19
⑥支部活動	20
⑦広報・啓発・募金活動 等	21
⑧国際活動	26
⑨奨学金事業	27
⑩ボランティアコーディネート・研修会	27
⑪調査研究協力	28
⑫年次大会	28
⑬クリスマスプレゼント	28
⑭物品・ボランティアのご協力	29
 寄付・募金者一覧	30

がんの子どもを守る会とは

1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもと設立され、子どもの難病である小児がんに関する知識の普及、相談、調査・研究、支援、宿泊施設の運営、その他の事業を行い、社会福祉及び国民保健の向上に寄与することを目的としています。小児がんは医学の進歩に伴って「不治の病」から「治る病気」になりつつあります。しかし、未だ病死順位の1位であること、たとえ治療を終えても小児がんの患児とその家族はさまざまな問題を抱えているのが実情です。当会は患児・家族が直面している困難や悩みを少しでも軽減すべく、多くの方々の支援のもとに活動をしています。

理事長あいさつ



公益財団法人がんの子どもを守る会 理事長 山下 公輔

2024年度事業報告書の発行に当たり、一
言ご挨拶申し上げます。

2024年度は日本全体が、不透明な景気
動向、物価高、円安、或いは災害や気候変
動を直に感じる夏や冬、そして背後には紛
争の長引く国際環境など、意欲を削がれが
ちな一年でしたが、お陰様で当会は無事に
事業全般に亘って計画通りの事業を遂行す
ることが出来ました。詳しい事業推進の状
況は報告書本文をお読みいただきたいと思
いますが、財政面でも、上記の様な社会・
経済環境の下での一般寄付金収入の伸び悩
みという近年の傾向に大きな変わりはあり
ませんが、今年度も篤志の方からの特別寄
付・遺贈を頂戴することができ、将来に向
け療養助成事業などの基幹事業のための積
み立ても行った上で、健全な決算とするこ
とができました。

ご支援を頂いた企業・団体・個人の皆様
に厚く御礼を申し上げると共に、昨年から
続く事務局の人員不足を乗り越えて業務を
遂行して頂いた職員の皆さん、更には支部
活動や様々なイベントをボランティアとし
て支えて頂いている全国の方々に、心から
の感謝の意を表させて頂きます。

公益財団法人 がんの子どもを守る会は、
1960年代に小児がんで子を亡くした親た
ちが共有した「小児がんが治る病気になっ
て欲しい」、そして「小児がんの子どもを持
つ家族が、自分達と同じような苦しみを味
わうことのない世の中をつくりたい」とい
う二つの願いをミッションとし、半世紀を
越えてその願いの実現を目指して事業展開
をして参りました。当会がこのように長き
に亘って事業を展開できておりますのも、
一にかかって当会のミッションをご理解頂
き、経済的に支えて下さる皆様のご篤志が
あっての事と心から感謝致しております。

どんな環境下にあっても、小児がんの患
児・家族・経験者に寄り添った支援の推
進、そして小児がんに関わる諸課題の解決
に向けた活動を続けて行くことが私たちの
使命であり、不肖私を含めた理事並びに事
務局職員一同、そのための努力を続けて参
る所存でございます。ご支援を頂いている
皆様におかれましても、当会の活動への一
層のご理解と引き続きのご支援を賜ります
よう、改めてお願い申し上げます。

2025年4月吉日



組織概要

※2025年3月31日現在

名 称 公益財団法人 がんの子どもを守る会

設 立 1968年10月31日

設立趣旨
当会は、1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもとに設立されました。

主務官庁 内閣府

主たる事務所 浅草橋 住所：〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12
TEL：03-5825-6311(代表) FAX：03-5825-6316

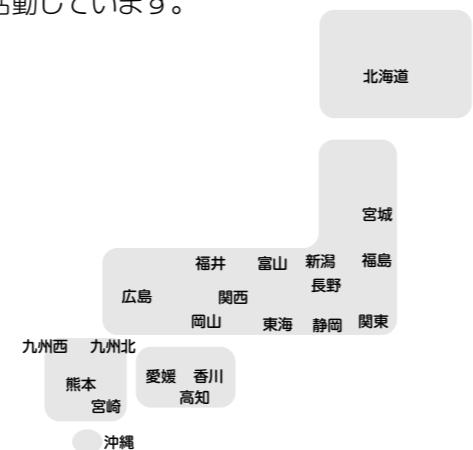
従たる事務所 亀戸 住所：〒136-0071 東京都江東区亀戸6-24-4
TEL：03-3638-6551(代表) FAX：03-3638-6553
大阪 住所：〒541-0057 大阪府大阪市中央区北久宝寺町2-3-1
TEL：06-6263-1333(代表) FAX：06-6263-2229

組 織
理事 13名（理事長1名、副理事長3名）
監事 1名
評議員 10名
職員 26名
普通会員 1,504名
賛助会員 239名（法人16社、個人223名）

支 部
当会には全国に21の支部があります。各地域の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児・家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児・家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。

21支部

北海道、宮城、福島、長野、新潟、福井、
富山、関東、静岡、東海、関西、岡山、
広島、香川、愛媛、高知、九州北、
九州西、熊本、宮崎、沖縄



役員名簿 (肩書は2025年3月31日現在のものです)

理 事 長

山下 公輔 親/元PwCアドバイザリー合同会社 シニアアドバイザー

副理事長

細谷 亮太 元聖路加国際病院小児医療センター長
近藤 博子 親/元当会ソーシャルワーカー
増子 孝徳 親/弁護士

理 事

橋都 浩平 元東京大学医学部 小児外科学 教授/
株式会社ジャパン・メディカルカンパニー社外取締役

張 光陽 親/当会九州北支部 幹事
坪田 起久恵 親/当会福井支部 代表幹事
森下 さふみ 親/当会関西支部 代表幹事/

田中 徹 NPO法人日本クリニクラウン協会 相談役
井上 敏 親/当会会員
舛本 大輔 当会会員/日本シンガポール協会副会長
酒井 信夫 小児がん経験者
丹野 泰 当会会員
常務理事/当会事務局長

監 事

三川 勝夫 親/三川会計事務所 代表

評 議 員

河 敬世 大阪母子医療センター血液腫瘍科 顧問/
近畿ブロック血液センター医学セミナー 顧問

西田 知佳子 NPO法人ハピネスト 代表/ソーシャルワーカー
平野 朋美 公益社団法人埼玉県医療社会事業協会 理事

幸島 静枝 親/当会会員
稻田 浩子 社会福祉法人ゆうかり学園ゆうかり医療療育センター小児科 部長

鈴木 中人 親/当会東海支部 代表幹事
隈部 俊宏 北里大学医学部 脳神経外科 主任教授
本橋 由紀 株式会社毎日新聞社 小田原通信部 記者

丸山 謙一郎 小児がん経験者
園部 かおる 親/当会会員/

聖路加国際病院小児病棟親の会リンクス代表

療養援助委員会

前田 美穂 日本医科大学 名誉教授
黒田 達夫 地方独立行政法人神奈川県立病院機構

神奈川県立こども医療センター 総長/
慶応義塾大学 外科学（小児）客員教授

柳澤 隆昭 東京慈恵会医科大学脳神経外科学講座 前教授/
東京慈恵会医科大学小児科学講座 客員診療医長

小澤 美和 聖路加国際病院 小児科 部長
松本 公一 国立成育医療研究センター 小児がんセンター長

川井 章 国立がん研究センター中央病院 希少がんセンター長/
骨軟部腫瘍・リハビリテーション科長

康 勝好 埼玉県立小児医療センター 血液腫瘍科 科長

調査研究委員会

細谷 亮太 当会副理事長/当会嘱託医
上別府 圭子 國際医療福祉大学大学院 看護学分野 教授
米田 光宏 国立成育医療研究センター 外科・腫瘍外科診療部長/
国立がん研究センター中央病院 小児腫瘍外科長
山下 公輔 当会理事長
増子 孝徳 当会理事
田中 徹 当会理事

研究助成委員会

山下 公輔 当会理事長
黒田 達夫 地方独立行政法人神奈川県立病院機構
神奈川県立こども医療センター 総長/
慶応義塾大学 外科学（小児）客員教授

小原 明 東邦大学 名誉教授
小澤 美和 聖路加国際病院 小児科 部長
陳 基明 さくら耳鼻科小児科医院 副院長
菱木 知郎 国立大学法人千葉大学大学院医学研究院 小児外科学 教授
丸 光恵 兵庫県立大学 看護学部 教授
<専門委員>
野寄 美和子 獨協医科大学 特任教授/
獨協医科大学埼玉医療センター 放射線治療センター長

逸見 仁道 アズサイエンス株式会社 小田原営業所
中澤 温子 埼玉県立小児医療センター臨床研究部 部長

小児がん経験者・がん遺児奨学金制度選考委員会

関谷 亜矢子 フリーANAウンサー
大賀 正一 九州大学大学院医学研究院成長発達医学 教授
松井 秀文 公益財団法人ゴールドリボン・ネットワーク ファウンダー
沢辺 隆雄 産経新聞 論説委員
田中 徹 当会理事

SMSキャンプ委員会

稻田 浩子 当会評議員
高木 正稔 東京科学大学 発生発達病態学分野教授
渡邊 輝子 済生会横浜市東部病院 看護部長
本橋 由紀 当会評議員
大植 孝治 兵庫医科大学小児外科 教授

富士山キャンプ委員会

別所 文雄 杏林大学医学部附属病院 小児科
小澤 美和 聖路加国際病院 小児科 部長
安野 啓一郎 児童自立支援施設 長崎県立開成学園
高土 陽一郎 川越市立山田学童保育室

名誉顧問

柳田 邦男 作家



会の歴史

(年度)

1962	設立趣意書作成
1966	NHK カメラリポートで紹介
1967	「がんの子供を助ける親の会」準備会
1968	2.25 「親の会」設立総会 10.31 「財団法人 がんの子供を守る会」として設立許可 11.18 治療研究委員会発足 12.27 緊急医療費援助開始、第1号患者2名に援助金
1969	小児がん全国登録開始
1970	関西支部設立総会 小児がん公費負担について厚生大臣に陳情
1971	陳情により、小児がん治療費の公費負担が実現
1972	九州支部設立総会 北海道支部設立総会 療養費援助を一般と特別に区分し援助開始。特別療養費審査会発足
1973	映画企画委員会発足 専任ケースワーカー設置
1974	48年度小児がん映画完成公開 静岡支部設立総会 全国登録委員会発足
1975	愛知支部設立総会 49年度小児がん映画完成公開 埼玉支部設立総会 パンフレット「こどものがん」刊行
1976	特定公益増進法人の認定
1978	当会に嘱託医を設置 創立10周年記念講演と映画の会
1979	長野支部設立総会 創立10周年記念・国際児童年記念小児がん国際シンポジウム
1981	新潟支部設立総会
1984	日本小児がん研究会発足
1985	第1回日本小児がん研究会（東京）（平成3年以降「日本小児がん学会」）
1986	竹中相談役・顧問に藍綬褒章
1989	創立20周年記念・第2回小児がん国際シンポジウム
1991	小冊子「がんとたかうとともに」刊行 宮城支部設立総会
1993	愛媛支部設立総会 小児がん経験者の会「フェロー・トゥモロー（F.T.）」結成
1994	小冊子「子どものがん、疾病別リーフレット」刊行
1995	宿泊施設「あかつきハウス」開設 岡山支部設立総会
1996	東京支部HOPE設立総会 学習ボランティア研修会開始（モデル事業）
1997	国際小児がん親の会連盟（ICCPPO）加入
1998	創立30周年記念第30回SIOP国際小児がん学会親の会会議
1999	九州支部、北・西・南の3支部に分割 清瀬小児病院の敷地内にある「たけのこハウス」、東京都中央区にある「あかしハウス」を東京都衛生局より委託（2002年度まで受託）
2000	「小児がん患児とその家族の支援に関するガイドライン」刊行 岩田理事長に藍綬褒章
2001	「アフラックペアレンツハウス亀戸」が完成、事務所移転
2002	「がんの子どもの教育支援に関するガイドライン」刊行 愛知支部が東海支部となる 広島支部設立総会

(年度)

2003	九州南支部が熊本支部となる 鹿児島支部設立総会 埼玉支部と東京支部HOPEが合併 関東支部となる
2004	福井支部設立総会 香川支部設立総会 沖縄支部設立総会 「アフラックペアレンツハウス浅草橋」が完成、亀戸より事務所移転
2006	小児がん経験者の支援と社会への啓発を目的としたゴールドリボン基金を設立 「小児がん経験者のためのガイドライン～よりよい生活をめざして～」刊行
2007	ゴールドリボンウォーキング2007開催（東京） 富山支部設立総会
2008	創立40周年記念事業がんの子どもと家族を支援する公開シンポジウム（千葉） 第1回小児がん経験者自立支援助成金
2009	「アフラックペアレンツハウス大阪」が完成/大阪事務所開設 高知支部設立総会
2010	「この子のためにできること 緩和ケアのガイドライン」刊行 福島支部設立総会
2011	東日本大震災緊急療養援助実施
2012	公益財団法人移行認定 鹿児島支部が鹿児島・宮崎支部となる
2013	「小児がん経験者及びがん遺児に対する奨学金給付事業」の認定 岩田最高相談役及び西村顧問に当会より特別功労賞を授与
2014	奨学金事業「アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度」を開始 厚生労働省に「難病及び小児慢性特定疾病対策・小児がん対策の充足を求める請願書」を提出 文部科学省に「小児がん患児が切れ目なく教育を受けることができる教育整備の充足を求める請願書」を提出 「小児がん経験者のためのハンドブック」刊行 「小児がんの子どものきょうだいのきもち」刊行 鹿児島・宮崎支部が宮崎支部となる
2015	第29回日本医学会総会2015関西 疾患啓発イベント「分かちあう気持ち、支えあう笑顔 小児がん医療の姿～いま そして これから～」開催 アフラックペアレンツハウス浅草橋10周年記念イベント開催 「小児がん こどもでんわ相談室」開設
2016	当会、一般社団法人日本小児血液・がん学会及び特定非営利活動法人日本小児がん看護学会の連名で厚生労働省に対し「小児がん対策に関する要望書」を提出 「小児がんの子どものきょうだいたち」刊行
2017	アフラックペアレンツハウス浅草橋及び亀戸 業務委託から直営による運営を開始 アフラックペアレンツハウス浅草橋及び亀戸 施設の拡充を目的とする改修・改装工事の実施 アフラックペアレンツハウス浅草橋 リニューアルオープン
2018	アフラックペアレンツハウス亀戸リニューアルオープン 創立50年記念式典開催（東京） 創立50年記念誌発行 国際小児がんの会（CCI）/第50回国際小児がん学会（SIOP）京都開催（運営参画）
2019	アフラックペアレンツハウス大阪 開設10周年（2020年1月） 第3期がん対策推進基本計画推進にむけた小児がん患者・家族からの要望（要望書）提出 小児慢性特定疾病対策見直しにむけた小児がん患者・家族からの要望（要望書）提出 接種済みワクチン再接種費用助成の要望について（要望書）提出
2020	コロナ禍により年次大会をWeb開催/テーマ「小児がんの移行期医療」 アンケート「新型コロナウイルス感染症による小児がん患者・家族の治療・生活への影響について」実施 小児がん対策の更なる充足についての要望書（厚生労働省）提出 切れ目なく教育を受けることができる教育環境の充足を求める要望書（文部科学省）提出
2021	アフラックペアレンツハウス亀戸開設20周年（2021年2月） 「小児がん経験者の健康管理サイト」開設
2022	小児・AYA世代がん対策政策提出のためのワーキンググループの意見を取り纏めて、 「小児がん患者・家族からの要望書」として厚生労働大臣および文部科学大臣へ提出 「小児がん経験者のための健康管理応援ガイド」刊行
2023	国の第四期がん対策推進基本計画を受けて各都道府県に対する小児がん患者・家族からの要望書提出 国際小児がんの会（CCI）アジア/国際小児がん学会（SIOP）アジア横浜開催（運営参画）
2024	ペアレンツハウス浅草橋の開業20周年の式典及びオープンハウス実施



2024年度収支報告

(2024年4月1日～
2025年3月31日)

2024年度収支報告



正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
財産運用益	5,031,236			5,031,236
信託預金利息	29,511			29,511
普通預金利息	365,954			365,954
定期預金利息	7,215			7,215
投資有価証券利息	4,628,556			4,628,556
受取寄付金	301,888,997		80,301,270	382,190,267
特定寄付金	4,005,000			4,005,000
一般寄付金	80,301,270			160,602,540
受取寄付金振替額	217,582,727			217,582,727
受取協賛金	0			0
ゴールドリボン協賛金収入	0			0
受取補助金等	20,333,964			20,333,964
受取補助金等振替額	19,333,964			19,333,964
受取敷金	1,000,000			1,000,000
受託料	559,288			559,288
調査研究受託料	0			0
相談支援受託料	559,288			559,288
受取利用料	3,651,100			3,651,100
施設利用料	3,155,450			3,155,450
リネン利用料	495,650			495,650
雑収益	1,566,651	1,800,000		3,366,651
雑収益	1,566,651	1,800,000		3,366,651
指定正味財産からの振替額	0			0
指定寄付金	0			0
経常収益計	333,031,236	1,800,000	80,301,270	415,132,506
(2) 経常費用				
事業費	329,994,929	575,058		330,569,987
人件費	89,122,246			89,122,246
法定福利費	10,724,540			10,724,540
給与	75,458,632			75,458,632
福利厚生費	12,694			12,694
退職給付費用	2,926,380			2,926,380
助成費	34,241,890			34,241,890
療養助成費	16,888,814			16,888,814
研究助成費	9,280,000			9,280,000
調査研究助成費	7,870,000			7,870,000
他 国際社会貢献関連助成費	203,076			203,076
活動費	80,968,166	309,106		81,277,272
会議費	1,746,570			1,746,570
旅費交通費	4,894,744			4,894,744
通信運搬費	8,438,826			8,438,826
消耗品費	7,553,770			7,553,770
修繕費	3,907,004			3,907,004
印刷製本費	2,459,924			2,459,924
光熱水料費	12,577,548			12,577,548
保険料	1,162,459	16,816		1,179,275
諸謝金	640,352			640,352
業務委託費	1,435,968			1,435,968
広報費	3,264,263			3,264,263
支援費	1,390,357			1,390,357
図書資料費	134,797			134,797
保健衛生費	655,558			655,558
ゴールドリボン制作費	220,000			220,000
宿泊施設運営費	534,278			534,278
租税公課	3,959,300	75,000		4,034,300
支部活動費	28,800			28,800
リネン賃借料	861,542			861,542
事業協力費	1,508,641			1,508,641
会場費	3,018,559			3,018,559
雑費	4,171,877	330		4,172,207
保守料	7,205,987	216,960		7,422,947
リース料	1,815,464			1,815,464
植栽管理費	211,028			211,028
借地料	844,620			844,620
支払報酬	1,246,540			1,246,540
衛生管理費	5,079,390			5,079,390

科目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
消耗什器備品費	0			0
減価償却費	30,962,627		265,952	31,228,579
建物減価償却額	26,454,281		100,247	26,554,528
建物附属設備減価償却額	4,095,999		105,820	4,201,819
ソフトウエア減価償却額	18,000			18,000
什器備品減価償却額	301,750		59,885	361,635
一括償却資産減価償却額	92,597			92,597
奨学金給付費	94,700,000			94,700,000
奨学金給付費	94,700,000			94,700,000
管理費			35,275,611	35,275,611
人件費			21,593,743	21,593,743
給与			16,748,133	16,748,133
法定福利費			2,824,474	2,824,474
福利厚生費			70,216	70,216
退職給付費用			1,950,920	1,950,920
活動費			12,388,522	12,388,522
会議費			8,599	8,599
旅費交通費			359,718	359,718
通信運搬費			537,462	537,462
消耗品費			117,495	117,495
修繕費			0	0
印刷製本費			318,791	318,791
業務委託料			3,344,000	3,344,000
図書資料費			58,800	58,800
保守料			607,761	607,761
リース料			3,309,317	3,309,317
支払報酬			2,420,000	2,420,000
租税公課			4,350	4,350
消耗什器備品費			414,480	414,480
雑費			887,749	887,749
減価償却費			1,293,346	1,293,346
ソフトウエア減価償却額			164,780	164,780
什器備品減価償却額			806,160	806,160
一括償却資産減価償却額			322,406	322,406
経常費用計	329,994,929	575,058	35,275,611	365,845,598
評価損益等調整前当期経常増減額	3,036,307		1,224,942	45,025,659
評価損益等計	0		0	0
当期経常増減額	3,036,307		1,224,942	45,025,659
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0		0	0
(2) 経常外費用				
固定資産除却損	0		0	0
経常外費用計	0		0	0
当期経常外増減額	0		0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	3,036,307		1,224,942	45,025,659
他会計振替額	581,789		△581,789	0
税引前当期一般正味財産増減額				
法人税・住民税及び事業税			△312,800	△312,800
当期一般正味財産増減額	3,618,096		330,353	45,025,659
一般正味財産期首残高	430,968,377		341,773	277,689,149
一般正味財産期末残高	434,586,473		672,126	322,714,808
II 指定正味財産増減の部				
受取補助金等	1,785,122			1,785,122
受取助成金	1,785,122			1,785,122
助成金	1,785,122			1,785,122
受取寄付金	198,261,662			198,261,662
指定寄付金	198,261,662			198,261,662
三重ファミリーリーム指定寄付金	70,000			70,000
施設運営指定寄付金	101,703,574			101,703,574
奨学金指定寄付金	96,488,088			96,488,088
特定資産評価損益	932,520			932,520
一般正味財産への振替額	△237,916,691			△237,916,691
指定寄付金	△217,582,727			△217,582,727
受取敷金	△1,000,000			△1,000,000
受取助成金等	△1,785,122			△1,785,122
受取補助金	△17,548,842			△17,548,842
当期指定正味財産増減額	△38,802,427		7,204,269	△38,802,427
指定正味財産期首残高	2,076			



正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	AFLAC ペアレンツハウス 特別会計	三重ファミリールーム 特別会計	小児がん経験者・ がん遺児奖学金特別会計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
財産運用益	5,031,236	4,925,135	92,590	8,458	5,053
信託預金利息	29,511	29,511	0	0	0
普通預金利息	365,954	259,853	92,590	8,458	5,053
定期預金利息	7,215	7,215	0	0	0
投資有価証券利息	4,628,556	4,628,556	0	0	0
受取寄付金	382,190,267	164,607,540	121,024,639	70,000	96,488,088
特定寄付金	4,005,000	4,005,000	0	0	0
一般寄付金	160,602,540	160,602,540	0	0	0
会費	5,262,000	5,262,000	0	0	0
寄付	155,340,540	155,340,540	0	0	0
受取寄付金振替額	217,582,727	0	121,024,639	70,000	96,488,088
受取補助金等	20,333,964	1,785,122	0	18,548,842	0
受取補助金等振替額	19,333,964	1,785,122	0	17,548,842	0
受取敷金	1,000,000	0	0	1,000,000	0
受託料	559,288	559,288	0	0	0
相談支援受託料	559,288	559,288	0	0	0
受取利用料	3,651,100	70,000	3,447,800	133,300	0
施設利用料	3,155,450	70,000	2,952,150	133,300	0
リネン利用料	495,650	0	495,650	0	0
雑収益	3,366,651	3,366,341	310	0	0
雑収益	1,566,651	1,566,341	310	0	0
資産受取賃借料収入	1,800,000	1,800,000	0	0	0
経常収益計	415,132,506	175,313,426	124,565,339	18,760,600	96,493,141
(2) 経常費用					
事業費	330,569,987	101,363,227	124,515,339	3,440,596	101,250,825
人件費	89,122,246	33,038,531	52,083,715	0	4,000,000
法定福利費	10,724,540	4,153,565	6,070,975	0	500,000
給与	75,458,632	25,958,586	46,000,046	0	3,500,000
福利厚生費	12,694	0	12,694	0	0
退職給付費用	2,926,380	2,926,380	0	0	0
助成費	34,241,890	34,241,890	0	0	0
療養助成費	16,888,814	16,888,814	0	0	0
研究助成費	9,280,000	9,280,000	0	0	0
調査研究助成費	7,870,000	7,870,000	0	0	0
他 国際社会貢献関連助成費	203,076	203,076	0	0	0
活動費	81,277,272	33,876,739	43,139,443	1,710,265	2,550,825
会議費	1,746,570	1,713,342	6,837	0	26,391
旅費交通費	4,894,744	4,634,636	26,608	233,500	0
通信運搬費	8,438,826	4,244,637	3,149,163	46,471	998,555
消耗品費	7,553,770	5,770,852	1,748,205	15,994	18,719
修繕費	3,907,004	39,050	3,867,954	0	0
印刷製本費	2,459,924	1,666,550	180,749	0	612,625
光熱水料費	12,577,548	0	12,239,014	338,534	0
保険料	1,179,275	122,180	1,046,555	10,540	0
諸謝金	640,352	612,512	0	0	27,840
業務委託費	1,435,968	423,000	887,700	125,268	0
広報費	3,264,263	3,264,263	0	0	0
支援費	1,390,357	1,390,357	0	0	0
図書資料費	134,797	25,597	109,200	0	0
保健衛生費	655,558	0	645,558	10,000	0
ゴールドリボン制作費	220,000	220,000	0	0	0
宿泊施設運営費	534,278	534,278	0	0	0
租税公課	4,034,300	78,500	3,955,800	0	0
支部活動費	28,800	28,800	0	0	0
リネン賃借料	861,542	0	861,542	0	0
事業協力費	1,508,641	1,508,641	0	0	0
会場費	3,018,559	3,018,559	0	0	0
雑費	4,172,207	2,985,485	289,829	30,198	866,695
保守料	7,422,947	348,960	7,018,847	55,140	0
リース料	1,815,464	0	1,815,464	0	0
植栽管理費	211,028	0	211,028	0	0
借地料	844,620	0	0	844,620	0
支払報酬	1,246,540	1,246,540	0	0	0
衛生管理費	5,079,390	0	5,079,390	0	0
減価償却費	31,228,579	206,067	29,292,181	1,730,331	0

科 目	合 計	一般会計	AFLAC ペアレンツハウス 特別会計	三重ファミリールーム 特別会計	小児がん経験者・ がん遺児奖学金特別会計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
建物減価償却額	26,554,528	100,247	24,737,547	1,716,734	0
建物附属設備減価償却額	4,201,819	105,820	4,082,402	13,597	0
ソフトウエア減価償却額	18,000	0	18,000	0	0
什器備品減価償却額	361,635	0	361,635	0	0
一括償却資産減価償却費	92,597	0	92,597	0	0
奨学金給付費	94,700,000	0	0	0	94,700,000
奨学金給付費	94,700,000	0	0	0	94,700,000
管理費	35,275,611	35,275,611	0	0	0
人件費	21,593,743	21,593,743	0	0	0
給与	16,748,133	16,748,133	0	0	0
法定福利費	2,824,474	2,824,474	0	0	0
福利厚生費	70,216	70,216	0	0	0
退職給付費用	1,950,920	1,950,920	0	0	0
活動費	12,388,522	12,388,522	0	0	0
会議費	8,599	8,599	0	0	0
旅費交通費	359,718	359,718	0	0	0
通信運搬費	537,462	537,462	0	0	0
消耗品費	117,495	117,495	0	0	0
印刷製本費	318,791	318,791	0	0	0
業務委託費	3,344,000	3,344,000	0	0	0
図書資料費	58,800	58,800	0	0	0
保守料	607,761	607,761	0	0	0
リース料	3,309,317	3,309,317	0	0	0
支払報酬	2,420,000	2,420,000	0	0	0
租税公課	4,350	4,350	0	0	0
消耗什器備品費	414,480	414,480	0	0	0
雑費	887,749	887,749	0	0	0
減価償却費	1,293,346	1,293,346	0	0	0
ソフトウエア減価償却額	164,780	164,780	0	0	0
什器備品減価償却額	806,160	806,160	0	0	0
一括償却資産減価償却費	322,406	322,406	0	0	0
経常費用計	365,845,598	136,638,838	124,515,339	3,440,596	101,250,825
評価損益等調整前当期経常増減額	49,286,908	38,674,588	50,000	15,320,004	△4,757,684
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	49,286,908	38,674,588	50,000	15,320,004	△4,757,684
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0



2024年度(2024年4月1日～2025年3月31日)の事業概況

2024年度の事業概況



1 療養援助事業

療養援助事業は、患児が等しく医療が受けられることを願い、療養に伴う経済的負担が軽減されることを目的として、創設当時から今日まで継続している事業です。創設当時、高額な小児がんの治療費のほとんどは自己負担でしたが、現在は一部を除き公費負担となっています。しかし、治療期間が長期にわたること、保護者の付添いによる二重生活やきょうだいの保育などさまざまな負担が生じている状況に変わりはありません。当事業は、経済的な援助を主軸にしつつ、現在では、闘病中のご家族が当会や病院のソーシャルワーカー、さまざまな社会制度などの資源とつながるための入り口としての役割も果たしています。当事業の対象者、対象事項等は以下の通りです。

対象者 18歳未満で小児がんを発症し、申請時20歳未満の抗腫瘍治療中の患児の家族（一疾病で一回限りの援助）で、以下の条件に該当する場合

- 1) 給与所得者：前年の課税所得（源泉徴収票の「給与所得控除後の金額」から、「所得控除後の金額」）を引いた額が400万円以下の場合
- 2) 自営業者：前年の確定申告書の「課税される所得金額（26）」（専従者がいる場合は「課税される所得金額（26）」に「専従者給与（控除）額の合計額（50）」及び「青色申告特別控除額（51）」を加算した金額）が400万円以下の場合

援助対象事項 1) 抗腫瘍治療中で入院療養に必要な対応として①～③のいずれかに該当する場合

- ①以下の治療を要する場合
移植の実施／転移もしくは再発がある又は有効な治療法がない場合／特殊治療が必要
- ②治療上のやむを得ない理由から治療施設と自宅が片道150Km以上離れている遠隔地で治療を要した場合
- ③未就学児のきょうだいがいる場合

2) 抗腫瘍治療中で入院・外来を問わず課税所得100万円（生計を一にする親族に所得がある場合は合算）以下の世帯（生活保護受給世帯を含む）

援助対象期間 申請書受理日から遡って3ヶ月間

援助の決定 療養援助委員会の審査会（年5回開催）にて、援助内容・金額を決定する。

■本年度決定実績

2024年度	
決定実績	182件
援助決定総額 (1件当たり平均)	¥16,888,814円 (92,796円/件)

本事業は、大原小児がん基金、日本労働組合総連合会「愛のカンパ」、株式会社ベルライフ、東京マラソン2024および東京レガシーハーフマラソン2024に参加されたがんの子どもを守る会チャリティランナーの皆様から寄付をいただきました。

2 相談事業及び関連事業

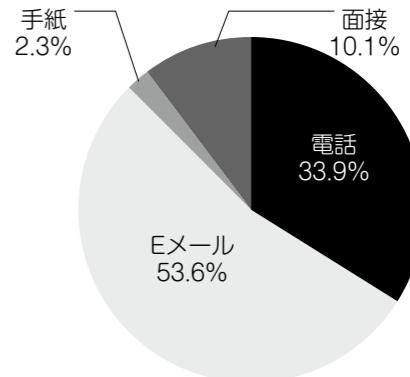
（1）小児がん相談事業

小児がん患児・家族は、数ヵ月から年単位の長期にわたる闘病生活を強いられることが多い、それまでの家庭生活や社会生活は一変します。加えて、告知をどうするか、きょうだいのケアをどうするか、療養にともなう経済的負担にどう対処するか、学校をどうするかなど、家族は多くの問題に直面することとなります。小児がんの治療はこどもの心身への負担も大きく、治療が終了した後も長期的な影響として身体的・精神的不調が残ることも稀ではありません。

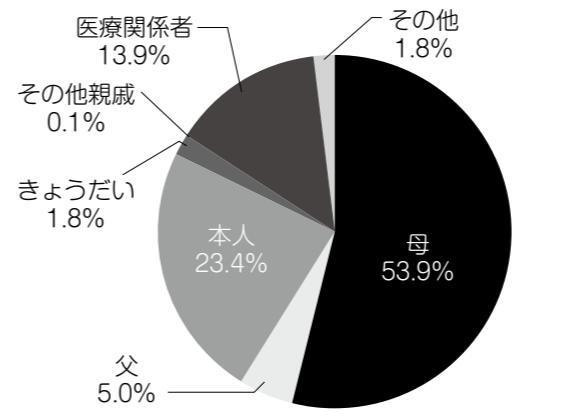
このように多くの不安や悩みを抱える患児・家族、また取り巻くすべての人に対して、治療中はもちろん、治療を終えた後も、また亡くされたご家族も、継続的なサポートが必要とされています。当会では、1973年に専任のソーシャルワーカーによる相談事業を開始し、以来50年以上にわたり相談支援を行っています。2024年度は、東京・大阪両事務所に常駐するソーシャルワーカーが計5名体制で相談に応じました。相談内容としては、療養生活の不安や経済的な負担について、また亡くされたご家族のグリーフを含めたご相談が変わらずありました。そのほか、昨年度に比べるとコロナ禍の落ち着きによりペアレンツハウス利用者も含め面接でのご相談が増え、トータルケアの視点で継続した関わりが多くみられました。（詳細は下記をご参照ください）。

1.相談方法

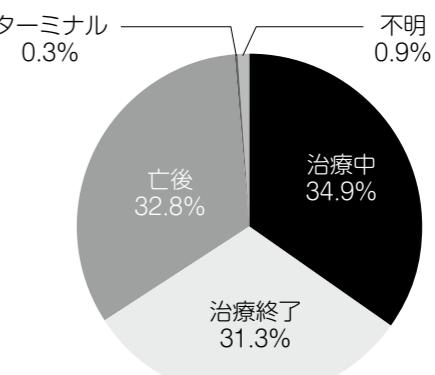
(単位：件)	
電話	701
Eメール	1,110
手紙	48
面接	210
計	2,069



2.相談者属性

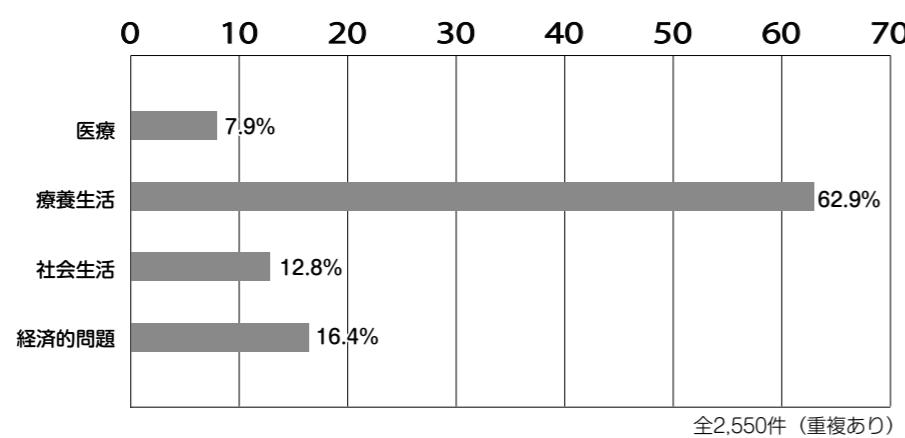


3.相談時期





4. 相談内容



※上記の各集計分類に含まれる内容は、以下の通りです。

医療：心理社会的、治療、晚期合併症、長期フォローアップ、医療者との関係、セカンドオピニオン等
 療養生活：心理社会的、グリーフ、近況、親の会・経験者の会について、家族・きょうだいについて、宿泊等
 社会生活：心理社会的、自立、教育、就労、保育等
 経済的問題：療養援助事業、社会制度、心理社会的、保険等

②短期集中サポートグループ

子どもを亡くされたことに関する様々な感情の表出や共感の機会の提供を目的として、小児がんでお子さんを亡くされて1年未満の母親を対象にサポートグループを開催しています。サポートグループが終了した後にも、参加者へのフォローアップの目的もかねて、半年後及び1年後頃に同窓会と称した集まりなど開催し継続的な交流を行っています。

2024年度は希望者がグループ定数に満たなかったため、開催を見送りました。

(5) 小児がん経験者への支援活動

①小児がん経験者の会リーダーの集い

小児がん経験者の会のリーダー及びこれから会を立ち上げようとしている小児がん経験者たちが、会を運営していく上の悩みや課題を一緒に考え共有していくことを目的とし、2003年より「小児がん経験者の会リーダーの集い」を開催しています。2024年度は2024年9月29日(日)に現地とオンラインのハイブリッドで開催し、現地3名、オンライン7名の計10名が参加しました。今年も小児がん経験者の会のリーダーだけではなく、会のメンバーとして活動している方などにご参加いただき、ピアサポート研修や会の活動について意見交換を行い、ピア活動の意義を共有する時間となりました。

②活動費の支援

小児がん経験者の会に対して活動費の支援を行っています。2024年度は5団体に計100,000円の活動費の支援を行いました。また小児がん経験者の企画(プロジェクト)に対する助成金制度として、1団体に30,000円の支援を行いました。

③小児がん経験者のオンライン交流会 Surv un café～さばかふえ～

2003年より開催している小児がん経験者の会リーダーの集いの中で「それぞれの会の枠を超えて多くの小児がん経験者同士が集まる場があるといいな」という声が上がり、小児がん経験者の会に所属している・していないに関わらず、広く小児がん経験者の方であればどなたでもご参加いただけるオンライン交流会を企画し、2年目を迎えるました。2024年6月22日はCCIAisaとコラボし、国際交流を行いました。9月29日「周りの人に病気のことを伝える？伝えない？」をテーマに、2025年1月19日にはブチ新年会「自分たちの夢を語ろう」と題して開催いたしました。

各回初参加の方を含む20名ほどの参加者が集まり、長期フォローアップや晚期合併症、アピアランスのこと、周囲の理解や働き方等に話題が広がり、ピア同士ならではの交流の時間となりました。

Surv un caféから“よりテーマを絞った集まり”として「さばかふえアピアランス部」の部活動合宿パジャマナイトも2025年3月8日～9日に開催し、7名の参加者とともにペアレンツハウス亀戸にて開催いたしました。

④スマートムンストンキャンプ

スマートムンストンキャンプ(SMS)は告知をされて小児がんと向き合ってきた子どもたちを対象にし、1998年に3人の医師、看護師などからなる運営スタッフによって始められたキャンプです。「病気について説明を受けている子どもたちが多数派になるまで見守る」という初期の目的を達成し、その後はこのキャンプで築かれた子どもたちのつながりを深くするため、そして新しい仲間を迎るために、これまでのスマートムンストンキャンプを礎として2011年より小児がん経験者が主体となって運営するキャンプを開催することになりました。2012年度からは当会の事業として、ボランティアを中心とした実行運営

(2) 小児がん こどもでんわ相談室

2015年8月「小児がん こどもでんわ相談室」を開設し、2023年度から本事業推進のため株式会社星企画様よりご寄付をいただき、よりこどもたちが気軽に相談できるようSNS等を活用した形になるよう検討を重ねてまいりました。2025年度からトライアルにて新たなスタートを切ることができるように準備をしております。

(3) 相談会の開催

患児・家族が個別に専門医に相談できる機会として、下記の個別相談会を開催しました。

■個別相談会

年月日	内 容	相談医	会 場
2024年9月24日	小児がん全般（グリーフなど）	細谷 亮太先生 (元聖路加国際病院小児総合医療センター長兼副院長)	東京（本部）
2025年2月7日	脳腫瘍	柳澤 隆昭先生 (東京慈恵会医科大学 脳神経外科学講座)	東京（本部）

(4) 子どもを亡くした家族の会

①子どもを亡くした家族の交流会

小児がんでお子さんを亡くされた家族の交流やわかつあいの場の提供を目的として、ペアレンツハウス亀戸（東京）、ペアレンツハウス大阪にて交流会を年6回開催しました。会は、母親の会、父親の会、きょうだいの会、ひとりっ子を亡くされた親の会、15歳～19歳のお子さまを亡くされたご家族というテーマを設け、各回とも、当会ソーシャルワーカー司会のもと、参加者が体験や近況などを話しあい交流を深めました。



グループが企画運営をしながら実施しております。本年度のスマートムンストンキャンプは、昨年に引き続き山梨県北杜市にある清泉寮自然学校をキャンプ地として、8月16日～18日の2泊3日の予定でしたが、キャンプ初日に台風7号が集合場所の東京を直撃するかもしれないという状況になり、安全確保のため急遽、8月17日～18日の1泊2日に変更となりました。予定より1日短い開催となりましたが、レクリエーションで楽しみ、普段話にくいことなど思いを共有できる場としてのお話会も行い、参加した子どもたちやボランティアさんからは「1日短くなつたけれど、とても楽しかった」「皆と会えてよかったです」という声が聞かれました。本年度の参加は、小児がんの子どもたちから成人までの11人の参加者、小児がん経験者を含むボランティア15名、企画運営にあたる小児がん経験者のボランティアリーダー6名、スタッフ7名、事務局1名、記者1名の41名でした。

協賛：公益財団法人毎日新聞東京社会事業団

(6) 小児がんピアソーター研修

①ピアソーター研修

小児がん患児・家族にとって、同じ問題に直面している仲間（ピア）に寄り添い、ともに考え、支援（サポート）するピアソーターの存在は、大きな心の支えとなります。一方、同じ経験をしたからこそ同調しそぎてしまうのではないか、どこまで相談に乗ってもいいのだろうか、という不安の声も聞かれます。そこで小児がん経験者・ご家族（親／きょうだい）30名の方を対象に、2024年10月～2025年2月に月1回約2時間、オンラインにてピアソーター研修を開催し、全5回の研修参加と各研修受講後の課題提出をもって修了証を発行しました。

②ピアソーターによるオンライン交流会

ピアソーター研修を修了した方々のご協力のもと、2023年より「治療中・治療後のこと」「小児がんでお子さまを亡くされた親の交流会」とテーマを分けオンライン交流会を開催しています。

2024年度は、「治療中・治療後のこと」を1回、「小児がんでお子さまを亡くされた親の交流会」を2回と計3回の交流会を開催いたしました。ピアソーターが進行役となりピアならではのあたたかい交流の場となりました。

(7) 親の会支援

①親の会連絡会

小児がん親の会が、会の運営や活動を共有しあうことを目的として年1回の集まりを持ち情報交換等を図る場として、1997年より「全国小児がん親の会連絡会」を開催しています。本年度は、2024年6月9日（日）の午前、浅草橋ヒューリックカンファレンスにて第27回親の会連絡会を開催いたしました。会場とオンラインのハイブリットで開催し、各団体の現状や課題、最近の話題など多岐に渡る意見交換が行われました。当日は、会場に20名、オンラインは7名の19団体27名の参加がありました。

②活動費の支援

全国の病院内や疾病別に発足している小児がん親の会は、子どもが小児がんにかかった親たちが身近に相談できる場所として大変重要です。各会に対して、運営や設立に関する相談に応じるほか、小児がん親の会に対して活動費の支援を行っています。本年度は合計32団体に938,100円の活動費の支援を行いました。

(8) きょうだいの支援

①「富士山にアタック!! 2024」

小児がんの子どものきょうだい向けのイベントは少なく、出会いや交流の場が少ないので現状です。当会では、2001年より毎日新聞社の支援を受け、小児がん患児のきょうだいのための富士山キャンプを行っています。コロナ禍での4年ぶり開催の昨年度を経て、24回目となる2024年度は8月3日～5日の日程で開催しました。小児がんの子どものきょうだい19名、ボランティア6名、他、医師及び当会職員等を含む合計36名が参加しました。厳しい暑さと晴天に恵まれた初日は、屋外でのレクリエーションを楽しみ、親睦を深めました。2日目は5時30分に民宿を出発し、皆一緒に6合目まで登り、6合目からはペースに合わせて大きく2つのグループに分けて富士登山をしました。最終日は水族館へ行き、道の駅でのお買い物を楽しみました。キャンプ中「きょうだいのお話会」も開催し、同じ思いを分かち合うとともに、お互いを知り理解を深める機会となりました。

協賛：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、公益財団法人毎日新聞東京社会事業団

②きょうだいの交流会 てんとうむし

当会では、きょうだい支援の一環として、富士山にアタック!! 参加者の「富士山だけじゃなくもう少し会いたいね」「旅行じゃなくて気軽に参加できたらいいな」という声から、2011年より小児がんのきょうだいの交流会を開催しています。開催にあたっては、小児がんの子どものきょうだいたちにより“てんとうむし”と名付けられました。これはテントウムシ（天道虫）が日本では太陽に向かって飛ぶといわれていること、また、外国では『子どもの守り神』といわれていることから、“子どもたちが守られ、その子の太陽に向かい自由に飛ぶ”という意味を込めています。同じ小児がんの子どものきょうだい同士が、こころにとめている想いを語り合い、分かち合い、同じ立場の人がいるという繋がりや安心感を持てる場として実施しました。開催は、現地とオンラインのハイブリットで行い、5月26日は5名の参加者と運動会、12月1日は9名の参加者でクリスマスパーティーとお話し会、3月30日は3名の参加者と巨大すごろくやアートの作成をいたしました。また、10月6日には特別企画として「みんなで高尾山に登ろう！」を開催し4家族8名が参加しました。いろいろなレクリエーションなどを通じてきょうだい同士が関わり合うことができる時間となりました。

③Sib-Ring Time

Sib-Ring Timeは、親御さんからのきょうだいたちが定期的に集える場があればいいなというお声を受け、きょうだいを意味する siblings と輪という意味の ring を合わせて Sib-Ring と名付け、2022年5月に毎月第4木曜日17時30分～約1時間、小児がんの子どものきょうだいなら誰でも参加でき、事前申込不要、途中参加・途中退出自由のオンライン交流会をスタートしました。今年度も毎月第4木曜日の17時30分～18時30分で開催し、漢字や動物に関するクイズしたり、音楽に合わせて体を動かしたり、その日の出来事の話もしました。また7月にはオンライン夏祭りを開催し季節に合わせたイベントも行うなど、いろいろな内容で実施しました。

(9) 車椅子・ウィッグ貸し出し事業

当会では、患児・ご家族、企業からご寄付いただいた車椅子及びウィッグを管理し、治療中や治療後に一時的に車椅子、ウィッグを必要とされる患児・ご家族へ無料での貸し出しをおこなっております。

2024年度の貸し出し件数は2023年度からの継続を含め、車椅子等が6件、ウィッグは2件となりました。



特に車椅子は小児用の車椅子を社会資源で貰うことは難しい場合が多く需要があります。車椅子、ウィッグともに外出のためや通学のために必要なケースが見受けられました。

ご利用される皆さまには、車椅子もウィッグもご寄付で頂戴した大事な資源であることをご理解のうえ、丁寧に大切に使っていただいております。

3 研究助成事業

(1) がんの子どもを守る会研究助成

子どもたちを小児がんのさまざまな脅威から守るため、その予防、早期の適切な診断、治療成績の一層の向上と後遺症のない治癒、トータルサポートによるよりよい療養生活などの実現に寄与する調査研究のさらなる促進を目的とし、2024年度よりこれまでの「治療研究助成」から「がんの子どもを守る会研究助成」と名称を改めました。小児がん経験者に関する研究、小児がんに関するトータルケアの研究、小児がんに関する基礎系・臨床系の研究の3課題で募集いたしました。審査の結果、34件(助成総額9,280,000円)を以下の通り助成しました。

〈2024年度 がんの子どもを守る会研究助成一覧〉

(助成期間: 2024年10月1日～2025年9月30日) * 所属は決定時点

氏名(敬称略:順不同)	所 属	研究名称
藍原 康雄	東京女子医科大学病院	小児松果体部腫瘍患児に対する神経心理学的支援の導入～あらゆる合併症を視野に入れた長期フォローアップ手順の確立を目指して～
青山 貴洋	愛知県がんセンター病院	日本における小児放射線治療の普及率と地域差の解明:国際的視点からの検討
生田 国大	名古屋大学医学部附属病院	小児・AYA患者のパラスポーツ参加支援とQOL向上に向けた取り組み
井上 健	地方独立行政法人大阪市立病院機構 大阪市立総合医療センター	小児がんのグループスタディの基盤となる小児腫瘍病理診断に関する資料の作成および小児腫瘍病理診断の教育研修活動
梅田 雄嗣	京都大学大学院医学研究科	ダウン症候群における胚細胞腫瘍発症メカニズムの解明
大植 孝治	兵庫医科大学	小児腎腫瘍に対する新規治療法開発のための国際臨床試験 UMBRELLA-J
金沢 英恵	国立成育医療研究センター	小児がん患児のWell-beingを支えるファシリティドッピングの役割～唾液a-アミラーゼによる歯科治療時のストレス評価～
川久保尚徳	九州大学	神経芽腫モデルマウスを用いたICGナビゲーション手術の最適化～臨床応用に向けて～
工藤 節美	大阪成蹊大学	小児がんの子どもと家族の在宅療養を支えるための往診医と訪問看護師の連携
慶野 大	神奈川県立こども医療センター	小児・思春期女性がん患者の妊娠性温存を志向して行われた卵巣組織凍結保存切片におけるdroplet digital PCR法を用いた微小残存病変の評価
小池 隆志	東海大学医学部附属病院	小児がん入院療養中の学童に対する質問票を用いた辛さと悩みの共有とその解決
小幡 裕希	国立がん研究センター研究所	小児神経芽腫の小胞体領域から発信されるがんシグナル～ALKチロシンキナーゼのオルガネラ停留機構、その理解に基づく新機序阻害法～
小堀 宅郎	大阪大谷大学薬学部	細胞内の“足場”を標的とした免疫チェックポイント分子の阻害に基づく神経膠芽腫に対する新規がん免疫療法の開発
佐伯 勇	広島大学病院	「VRはたらく細胞」制作と患児を対象とした臨床研究
坂口 大俊	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター	小児・若年成人世代の再発難治性B細胞性急性リンパ性白血病に対する同種造血細胞移植後のブリナツモマブ維持療法の再発予測バイオマーカーの確立
白坂 真紀	滋賀医科大学	長期入院中の「こどものよろづ相談」を引き受けける多職種支援のアクションリサーチ～こどもが安心して遊び学習できる場の保障を目指して～
佐治木大知	名古屋大学医学部附属病院	エラー修正次世代シーケンス法による若年性骨髄単球性白血病における低アリル頻度変異の検出と微小残存病変解析への応用
末松 正也	京都府立医科大学	CAR-T細胞とHMG-CoA還元酵素阻害薬の新規併用療法の開発
高田 尊信	金沢医科大学	食事性AGEsが引き起こす口内炎に対する半夏瀉心湯エキスの緩和・予防効果
津村 悠介	国立がん研究センター	本邦の小児悪性腎腫瘍の発症機序、病態の解明
徳村 亜依	東京大学大学院医学系研究科	小児がん患者の療養生活を支える、遊びを通じた看護ケアの探索的研究

氏名(敬称略:順不同)	所 属	研究名称
西村 明紘	神戸大学大学院医学研究科	新規プロテオーム・ネットワーク解析を駆使した神経芽腫の治療標的探索
西村 雄宏	千葉大学大学院医学研究院	神経芽腫に対する抗GD2抗体及びiPS細胞由来NKT細胞を用いた免疫療法開発
西村 範行	神戸大学大学院	高リスク神経芽腫患者における微小残存病変(MRD)評価法の開発
原(野上)愛	就実大学薬学部	L-アスパラギナーゼアレルギーならびに薬剤耐性に関わるサイトカインプロファイルの解析
藤崎 弘之	大阪市立総合医療センター	難治性B前駆細胞性急性リンパ性白血病に対するブリナツモマブ併用化学療法の単施設臨床試験(ER-Blinex試験)
福井 郁子	帝京科学大学	就労期の小児がん経験者への食習慣改善プログラムにおけるAIを活用した自動コーチングの構築
福岡 講平	埼玉県立小児医療センター	小児脳腫瘍における髄液ctDNAメチル化解析による低侵襲分子診断法の開発
福島 紘子	筑波大学	小児がん患者の陽子線照射後の消化管出血・潰瘍発生の解析、新たなバイオマーカー探索
細谷 要介	聖路加国際病院	一般総合病院の機能を活かした小児がん経験者の人間ドックシステムによる晚期合併症とQOLの生涯コホート調査と自立的な健康管理能力の育成～他機関との連携
三村 和哉	京都府立医科大学	神経芽腫骨髄転移モデルマウスを用いた骨髄転移メカニズム解析と間葉系幹細胞を用いた腫瘍特異的ドラッグデリバリーシステムによる新規免疫治療開発
宮城島沙織	日本医療大学	小児がん経験者のサルコペニアの実態調査ならびに身体活動と心身機能の関連
森 健	兵庫県立こども病院	標準的化学療法を行った進行期小児リンパ芽球性リンパ腫の予後因子探索を主目的とした多施設共同研究 JPLSG-ALB-NHL-14
渡邊 潤	新潟大学脳研究所	小児脳幹部腫瘍に対するエビゲノム標的療法

(2) 海外留学助成事業

小児がんに関わる若手の医療者が、海外の医療施設や研究・教育施設等に留学することにより、小児がん医療に関する高度な知見や資格・技術等を習得・取得し、広く小児がん医療及び患児・家族の療養環境の向上に寄与できることを目的として、2年に1回の募集を行い、留学にかかる費用を助成する事業です。本事業は審査機関を一般社団法人日本小児血液・がん学会教育研修委員会に委託し実施しております。2024年度は以下のとおり2名が助成決定しております。

〈2024年度結果〉

助成対象者: 宮本 智史先生(東京科学大学病院 小児科(旧東京医科歯科大学病院))

研究課題: Implementation of gene therapy using lentiviral vectors for IL1Ra deficiency (IL1Ra欠損症に対するレンチウイルスベクターを用いた遺伝子治療の実装)

留学先: National Institute of Allergy and Infectious Diseases, National Institute of Health (国立アレルギー・感染症研究所、国立衛生研究所)

助成対象者: 塚田 遼先生(国立病院機構福山医療センター 小児外科・小児泌尿器科)

研究課題: Investigation of the antitumor effect of anticancer drug regime sarcoma (pediatric solid tumors in the high-risk group) using a novel molecularly targeted therapeutic agent targeting apoptosis inhibitors

(アポトーシス阻害因子を標的とする新規分子標的治療薬を用いた抗がん剤体制肉腫(高リスク群の小児固形腫瘍)に対する抗腫瘍効果についての検討)

留学先: Emory University School of Medicine (エモリー大学医学部)



4 総合支援施設運営事業

(1) アフラックペアレンツハウスの運営事業

アフラックペアレンツハウスは、亀戸（東京都江東区亀戸、2001年2月開設）、浅草橋（東京都台東区浅草橋、2004年12月開設）、大阪（大阪府大阪市中央区北久宝寺町、2010年1月開設）の3か所あります。小児がんなど小児難病の患児・家族に寄り添う総合支援センターとして運営しております。これまで宿泊部門では、3棟で延べ159,375名の方にご利用いただきました。尚、運営に関する費用については、アフラック並びにアフラックの社員及び全国の代理店（アフラック全国アソシエイツ会）の皆様からのご支援により賄われ、また、その他にも多くの企業・個人の方々からのご寄贈やボランティア、医療関係者によるご支援も頂きながら運営を継続しています。

2024年は、昨年度から計画していた浅草橋ペアレンツハウスの全館空調工事を10月に実施しました。浅草橋も開設して20年が経過し、建物及び付帯設備等の老朽化に対応していくかなければならなくなっていました。そして、全館空調工事が終了した2024年11月、浅草橋設立20周年の記念式典とオープンハウスを実施しました。約70名の方にお越しいただき、20年間への感謝の気持ちをお伝えできる機会となりました。

生活がコロナ禍以前に戻りましたが、引き続きペアレンツハウス3棟においては安心・安全に運営を継続してまいります。

■宿泊利用状況

延べ宿泊利用家族数	
(2024年4月1日～2025年3月31日)	※（）は前年度
亀戸（10室）	/150家族（115家族）
浅草橋（14室）	/236家族（294家族）
大阪（12室）	/268家族（222家族）
計	654家族（631家族）



▲ 浅草橋

▲ 大阪

(2) その他の宿泊施設

①あかつきハウス

あかつきハウスは、1995年から東京都中央区の区立住宅「築地あかつき住宅」の一室をお借りして、遠隔地から東京都中央区内の病院で治療をされる患児とその家族のための宿泊施設として管理・運営をしています。利用料は1泊2,000円（寝具等の維持管理費含む）です。2024年10月～12月にかけて、「築地あかつき住宅」ではエレベーターの交換工事を実施し、階段しか利用できない期間があり、2024年4月1日より2025年3月31日までの間は、例年より少ない延べ6家族の利用となっています。



②三重ファミリールーム

三重ファミリールームは、三重大学医学部附属病院、および近郊の病院に入院中あるいは小児科外来等に通院中の小児慢性疾患児とその家族のための宿泊施設で、2階建ての建物に和室4室があります。2024年度は、延べ21家族の利用がありました。

2000年より当会と三重ファミリールーム運営委員会（三重大学附属病院小児科内）と共同で管理・運営してまいりましたが、建物・設備の老朽化等もあり、2025年3月末で運営を中止しております。

5 小児がん・難病対策

当会では設立以来、新薬の承認、医療費の公費負担の実現など小児がん患児・家族が抱える制度上の問題点を訴え、発信し続けてきました。国や地方自治体が運営する様々な協議会に当会会員が患者家族の代表として参画し、政策への意見や提言を活発に述べることができました。

■当会が参画している委員会及び各地域のがん対策協議会など

全国	小児がん中央機関アドバイザリーボード
北海道	「ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業（病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業）」教育保障検討会議
宮城	東北ブロック小児がん医療体制協議会 宮城県がん患者会・サロン ネットワークみやぎ
福島	東北ブロック小児がん医療体制協議会 がん対策推進協議会（栃木県）
関東	がん対策推進協議会（東京都） 小児・AYA世代がん診療連携協議会（東京都）
新潟	慢性疾病児童等地域支援協議会（県、新潟市） 新潟県がん対策推進協議会
富山	がん対策推進協議会 がん委員
福井	がん治療相談支援部会 県難病患者団体連絡協議会
静岡	慢性疾病児童等地域支援協議会（県、静岡市）
関西	小児・AYA世代のがん対策部会（大阪府） 近畿ブロック小児がん医療体制協議会
愛媛	がん対策推進協議会 慢性疾病児童等地域支援協議会
高知	がん対策推進協議会
九州北	がん対策推進協議会（福岡県）
九州西	がん教育普及推進協議会（長崎県）、がん対策等推進協議会（佐賀県） がん対策推進協議会
沖縄	がん診療連携協議会 小児・AYA部会



6 支部活動

当会には全国に21の支部があります（2025年3月31日現在）。各地域の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児・家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児・家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。

（1）講演会、交流会、相談会、総会等

開催月	支部	内 容
7月	北海道	はるにれの会（子どもを亡くした親の会）
	新潟	病院がプラネタリウム（新潟県立がんセンター新潟病院） ユーチューブ同時配信
	富山	グリーフカフェ
	福井	のぞみお話タイム夏祭り（福井大学医学部附属病院小児科病棟プレイルーム）
	関西	のぞみトークきんき 2024 「小児がん長期フォローアップから始まった移行期支援の取り組み」
	岡山	小児がん家族の交流会（倉敷中央病院）
8月	福島	経験者の交流会
	福井	ピアサポートカフェ（福井市図書館地域交流センター）
	高知	ピアサポートカフェ
9月	新潟	病棟訪問人形劇「ぶんちゃかちや」（新潟県立がんセンター新潟病院）
	福井	「つなげよう。ゴールドリボンの輪」小児がん啓発イベント (主催: 福井本丸ライオンズクラブ、協力: 福井小児がん支援団体ネットワーク)
	静岡	静岡県健康保健センター合同交流会
	愛媛	市民公開講座「小児がんの闘病と支援、みんなに金メダルを」 (共催: 愛媛大学大学院医学系研究科小児科学講座)
	九州北	レモネードスタンド in ふくおか 2024 (JR 博多駅前) 第7回小児がんの子どもの教育を考える講演会（主催: 九州大学病院）ウェブ開催
10月	関東	お子様を亡くしたご家族の交流会
	関西	小児がん経験者の親の交流会
11月	富山	グリーフカフェ
	沖縄	第2回スペシャルキッズの未来を語ろう（主催: 一般社団法人顔晴れ会）
12月	福島	院内クリスマス会（福島県立医科大学附属病院）
	新潟	グリーフキャンドルワークショップ（新潟市中央公民館）
	福井	のぞみお話タイムクリスマス会（福井大学医学部附属病院小児科病棟プレイルーム）
1月	九州北	九州沖縄地域小児がん医療提供体制協議会市民公開講座 「小児がんの薬の未来」ウェブ開催
2月	関西	近畿小児血液・がん研究会公開シンポジウム 「入院中の子どもたちと家族に笑顔あふれる日常を」（兵庫県立こども病院）
3月	福井	ピアサポートカフェ（鯖江市市民活動センター）
	東海	講演会「～教えて！治療中の食事とお口の健康～」ウェブ開催
	九州北	第54回講演・交流会 「小児がんと生活習慣」「小児がん経験者として過ごした14年間を振り返って」 (大分大学医学部附属病院)

※他、各支部では様々なイベントや啓発活動、募金活動等を実施しました。

（2）支部連絡会

支部活動の活性化、および質の向上を目的に全国21の支部幹事を対象に年2回開催しています。2024年度は6月と11月の2回開催しました。11月は2日間に渡り、ペアレンツハウス亀戸とオンラインのハイブリッド形式で開催され、全国の支部から総勢25名の支部幹事が参加し、研修や今後の活動についての意見交換等が行われました。

7 広報・啓発・募金活動 等

第29回がんの子どもを守る会公開シンポジウム

2024年12月13日（金）～12月15日（日）の会期で第66回日本小児血液・がん学会学術集会、第22回日本小児がん看護学会学術集会、第29回公益財団法人がんの子どもを守る会公開シンポジウムが国立京都国際会館（京都府京都市）にて開催されました。

後援：厚生労働省、こども家庭庁、京都府、京都市、公益社団法人日本小児科学会、一般社団法人日本小児外科学会、一般社団法人日本小児看護学会

■三団体合同公開シンポジウム

「こどもたちが成長していく中の療養環境～こどもたちにとって何が大切？～」

- ・日 時：2024年12月15日（日）13:40～15:40
- ・座 長：足立 壮一先生（第66回日本小児血液・がん学会学術集会会長／滋賀県立総合病院）
松岡 真里先生（第22回日本小児がん看護学会学術集会会長／三重大学大学院医学系研究科看護学小児看護学）
- ・基調講演：大谷 美紀子先生（国連子どもの権利委員会委員／大谷&パートナーズ法律事務所弁護士）
- ・シンポジスト：「子どもの療養支援を担当する専門職」

米田 光宏先生（国立成育医療研究センター外科・腫瘍外科／国立がん研究センター中央病院小児腫瘍外科 医師）

「がん治療を受けている子どもが成長していく中の療養環境～こどもたちにとって何が大切？～」

山本 光映先生（聖路加国際病院 看護師）

「付き添い者の思い」

平井 志津佳氏（小児がん経験者の親）

「小児がんにまつわる療養環境について～小児がん経験者の立場から～」

板倉 京平氏（小児がん経験者）

- ・参加者：約200名

■小児がんの子どもたちの絵画展

当会では、多くの方に小児がんのことを知りいただくことを目的に、1988年より小児がんの子どもたちが描いた絵を展示し「小児がんの子どもたちの絵画展」を開催しています。本年度は、全国から寄せられた37点を展示しました。

- ・期 間：2024年12月13日（金）～12月15日（日）

- ・来場者：約800名

助 成：公益財団法人JKAによるオートレース補助事業





外部講演

今年度も、小児・AYAがんや患者家族への理解を深めていただく場として、下記の講演等の機会をいたしました。

年 月	内 容
2024年6月	NATIONWIDE ICCD CAMPAIGN BY CCAJ (CCI アジア年次大会)
2024年6月	CREATE A SYSTEM TO ENCOURAGE SURVIVORS TO MANAGE THEIR OWN HEALTH (CCI アジア年次大会)
2024年7月	がんの子どもを守る会・患者家族の想い (小児慢性特定疾病児童等支援者養成 自立支援員研修会)
2024年7、9月	小児がん患者会と患者家族の想い (東京大学医学部公衆衛生学実習)
2024年7月	小児がん経験者の就労支援 (がんのこどものトータルケア研究会静岡)
2024年9月	小児がん患者家族の想い (小児がん相談員専門研修)
2024年11月	ペアレンツハウス及びがんの子どもを守る会の取り組みについて (こども家庭庁視察)
2024年11月	小児がんについて知ろう (手代木南小学校)
2025年2月	小児がん患者家族の想い・ICCD (武州製薬)
2025年3月	長期フォローアップの課題・小児がん経験者の声 (東京都小児・AYA 世代がん長期フォローアップ研修会)

東京マラソンチャリティ Run with HERAT 寄付先団体としての活動

2024年度も以下の2つのマラソン大会が開催され、当会も2023年度に引き続き寄付先団体として参加しました。2024年度は3回目の参加となり、合計で39名の方にチャリティランナーとしてご支援いただきました。ありがとうございました。大会当日（事前の東京マラソンEXPO2025も含む）のブース運営や小児がんや当会の周知広報を行うと共に、多くのランナーと思いを共有することができました。企業ボランティアの方にもご協力をいただきました。なお、ご支援いただいた寄付金はすべて当会の療養援助事業に活用させていただいております。

- ・東京レガシーハーフマラソン2024(2024年10月20日)
- ・東京マラソン2025(2025年3月2日)

2025年度も引き続き東京マラソン財団チャリティ RUN with HEARTに参画して活動を継続します。

ゴールドリボンによる啓発活動

ゴールドリボンとは、小児がんに対する理解や支援をよびかけるときに使われる世界共通のシンボルマークです。ゴールドリボンをあしらったアクセサリーを作成し、小児がんの啓発を兼ね、募金をされた方へ贈呈しました。本年度も多くの企業や有志で集まった方々に様々な工夫を施した広報・募金活動を行っていただきました。



ゴールドリボンイラスト



ピンバッジタイプ



ストラップタイプ



ネックレス

チャリティバッグの頒布

小児がん支援のシンボルマークであるゴールドリボンのイラストをプリントしたチャリティバッグの頒布を行いました。1,000円以上の募金をいただいた方に頒布しました。



▲ エコバック



▲ トートバッグ

常設募金箱の設置

店舗のレジ横、医療機関などに設置できるオリジナル募金箱を作成し、支援者の方々のご協力のもと、広く募金活動を展開することができました。全国で49か所に設置のご協力をいただいております。



▲ 常設募金箱



▲ 支援自動販売機

支援自動販売機設置

売上の一部が当会に寄付される支援自動販売機があります。全国30か所に設置していただいております。

機関紙「のぞみ」の発行

当会創立時より、小児がんに関する情報提供及び当会活動の紹介・報告を目的に「のぞみ」を発行しています。2024年度は、下記の4号を発行しました。

号	発行月	内 容
第217号	2024年4月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度年次大会のご案内、事業計画、収支予算、2024年度相談会・交流会・研修会等のお知らせ、年間スケジュール ・東京マラソンチャリティ参加報告 ・ピアソーター研修報告 ・2024国際小児がんデーキャンペーン報告 他



第218号	2024年7月29日	<ul style="list-style-type: none"> 2024年度 年次大会開催・分科会報告 第27回 小児がん親の会連絡会報告、第41回 支部連絡会報告、SIOP ASIA 2024/CCI ブース報告、第29回公開シンポジウム Global Gold September Campaign 2024 開催のお知らせ ペアレンツハウスからのたより 他
第219号	2024年10月15日	<ul style="list-style-type: none"> 2024年度 年次大会講演会報告「ゲノム医療と小児がん治療」(前編)、SIOP ASIA 2024/CCI 参加報告、富士山にアタック !!2024 報告、スマートムンストンキャンプ 2024 報告 Global Gold September Campaign 2024 実施報告 第29回公開シンポジウム 他
第220号	2025年1月31日	<ul style="list-style-type: none"> 第29回公開シンポジウム報告、ペアレンツハウス浅草橋 20周年記念式典・オープハウス開催 「ゲノム医療と小児がん治療」(後編)、第42回 支部連絡会報告 てんとうむし特別企画「みんなで高尾山に登ろう!」、てんとうむしクリスマスパーティーとお話し会、小児がん経験者リーダーの集い報告、さばかふえ報告、クリスマスプレゼント報告 他

小児がんに関する冊子・資料の発行

より良い療養環境の整備に寄与することを目的として、冊子の発行を行い、患児・家族、小児がん医療に携わる医療者、教育関係者等に配布しました。

国際小児がんデーの活動

2月15日は「国際小児がんデー」です。国際小児がんデーは国際小児がんの会 (CCI : Childhood Cancer International) により創設され、国際小児がん学会 (SIOP : International Society of Paediatric Oncology) など世界的な主要機関のネットワークにより拡げられています。当会では、1月1日～3月31日をキャンペーン期間とし、全国的に小児がんの啓発に努めました。また、小児がんの子どもたちを支援する気持ちを身近な人と分かち合ってほしいとの想いで、メッセージカード付きのオリジナルチョコレートを用意して、多くの方にお届けしました。



■啓発活動など

全国各地の商業施設や病院、大学、行政機関などにご協力をいただき啓発チラシ設置や、ポスターの掲示、ゴールドリボンツリーなどを飾りました。

〈主な協力機関〉(順不同・敬称略)

行政・公共機関等

宮城県、新潟県、栃木県、東京都、文京区、大和市立図書館、射水市、射水市中央図書館、富山県、福井県、大野市、小浜市、敦賀市、福井市総合ボランティアセンター、福井県立図書館、桜木図書館、福井市立図書館、みどり図書館、美山図書館、清水図書館、蒲郡市立図書館、岡山県、岡山市立中央図書館、オーテピア高知図書館、福岡県、福岡市、小竹町、宮若市、鞍手町、宗像市民図書館、嘉穂市立図書館(嘉穂、山田、碓井、稻築)、織田廣喜美術館、宗像・遠賀保健福祉環境事務所、佐賀県、熊本市男女共同参画センターはあもにい、熊本市役所、宮崎県

病院等医療機関

北海道大学病院、東北大学病院、宮城県立こども病院、新潟県立がんセンター新潟病院、埼玉県立小児医療センター、東京都立小児総合医療センター、国立成育医療研究センター、東邦大学医療センター大森病院、神奈川県立こども医療センター、富山県がん総合相談支援センター、富山県立中央病院、福井大学医学部附属病院、福井県済生会病院、福井赤十字病院、福井県立病院、市立敦賀病院、本馬医院、大阪市立総合医療センター、岡山大学病院、岡山医療センター、岡山日本赤十字病院、岡山済生会総合病院、倉敷中央病院、川崎医科大学付属病院、川崎医科大学総合医療センター、津山中央病院、高梁中央病院、金田病院、岡山労災病院、岡山市立市民病院、倉敷成人病センター、岡山県難病相談支援センター、岡村一心堂病院、広島大学病院、佐賀大学医学部附属病院、佐賀県健康づくり財団、大分大学医学部附属病院、宮崎大学医学部附属病院、九州がんセンター、九州大学病院、産業医科大学病院

教育機関等

岩ヶ崎高等学校 IWAKOU LEMONS、大島小学校、福井県立大学、福井医療大学、仁愛女子短期大学、敦賀看護大学、敦賀高等学校、敦賀気比高等学校 IAC、若狭高等学校 JRC 部、鯖江高等学校 JRC 部、若狭高等看護学院、高志高等学校、奥越明成高等学校、旭川莊厚生専門学院、豊こども園、豊小学校、西大寺中学校、岡山学芸館高等学校、IPU 環太平洋大学保健室、山口県立大学、認定こども園との幼稚園

企業・商業施設等

アフラック生命保険株式会社、アフラック販売代理店の皆さま、日本対がん協会、清水建設株式会社、武州製薬株式会社／武州製薬ユニオン、モルガン・スタンレー・グループ株式会社、株式会社 Fast Fitness Japan、一般社団法人 Empower Children、豊川稻荷、コラッセふくしま、第一生命保険株式会社仙台総合支社、原町オフィス、サントムーン柿田川、KitchenSpace & WorksStudio roca、みやの森カフェ、る・ふっくらん、株式会社プレステージ・インターナショナル、株式会社プレステージ・コアソリューション、CCCT 小児がんのコト親の会、株式会社スカイインテック、株式会社藤崎、福井県織協ビル、鯖江市民活動センター、アピタ福井大和田店、福井本丸ライオンズクラブ、みんなの保健室、みいつカフェ、おばまショッピングセンター、A コープ小浜、アルプラザ鯖江店、大野ショッピングセンター VIO、ラブリーパートナー Lpa、ハピラインふくい、カフェ縞、ECO DOG、道の駅若狭おばま、MEGA ドン・キホーテ UNY 敦賀店、兵助株式会社、ブルーライトヨコヤマ、MK Swan バレエスタジオ、じょんかふえ、ビューティーロマン、すなっく絆、和伊和伊亭 敦賀神楽店、焼肉「壇」、オバママ、和宗総本山四天王寺、小野薬品工業株式会社、第一生命保険株式会社 本町営業所、神戸フィルハーモニック、岡山商工会議所西大寺支所、NPO 法人ポケットサポート、株式会社エディオン広島本店、pizzeria Maruburin 南高井店、ポンジュルネ、ミネット、ワタナベフォトスタジオ、Flat Chill COFFEE STAND、青葉食堂、ハレトケ舎、morinoiro 古川銘木店、30-spice、RainbowFarm、YUGE FARM、herbspace te-te、miiia01、ヒノデパン、日本郵便株式会社 九州支社、福岡県内郵便局(若宮、小竹、宮田、鞍手、磯光、新延、宮田桐野、長井鶴、吉川、新北、新



多、古月、笠松、田川糸、行橋、苅田、蓑島、今井、新田原、椿市、行橋今川、小波瀬、行橋大橋、白川、福富、苅田駅前、行橋西宮市、椎田、豊津、勝山、下城井、城井、伝法寺、築城、犀川、伊良原、黒田、椎田八田、祓郷、諫山、嘉穂、上山田、稻築、千手、碓井、鴨生、宮野、下山田、漆生、牛隈、山田大橋、山野、宇島、大平、合河、吉富、角田、千束、豊前黒土、豊前三毛門、南吉富、豊前山田、豊前八屋)、十八親和ペンギンハウス、松ヶ江LEGEND サッカークラブ、コーパスアップルタウン店

メディア掲載

朝日新聞、読売新聞東北総局、読売新聞福島支社、株式会社エフエム仙台、SBSラジオ、新潟日報社、日刊県民福井、福井新聞、こしの都ネットワーク、ケーブルテレビ若狭小浜、嶺南ケーブルテレビネットワーク、山陽新聞社、西日本新聞社、高知新聞、FBS福岡放送

*その他、全国多数の商業施設等で募金・啓発活動にご協力をいただきました。

キャンペーンの報告等、詳細はInstagramでもご紹介しております。
<https://www.instagram.com/ccaj1968/>

小児がん啓発月間(Childhood Cancer Awareness Month)の活動～Global Gold September Campaignへの協力(継続)～

毎年9月に世界中の小児がん団体が「小児がん啓発月間/Childhood Cancer Awareness Month」として、小児がんの理解を促し支援を求める目的で様々な活動を行っています。2024年度も日本小児がん研究グループ(JCCG)の呼びかけに応じて、ゴールドのライトアップで小児がんへの理解・支援を呼びかける世界的な啓発イベント(Global Gold September Campaign: GGSC)に協力しました。北海道支部によるさっぽろテレビ塔、九州西支部による稻佐山山頂電波塔と佐賀メディカルセンタービルのライトアップに加えて、2024年度は昨年から開始して関西支部による彦根城、新たに福井支部の福井城址石垣及び福井駅前恐竜、宮城支部の青葉城伊達政宗騎馬像のライトアップも実現しました。また浅草橋・亀戸・大阪の各ハウスでの飾りつけも行いゴールドセプテンバーの活動に協力しました。

8 国際活動

国際小児がんの会(CCI/Childhood Cancer International)年次総会への参加

当会は国際活動として長年に亘り、国際小児がん学会(SIOP/International Society of Paediatric Oncology)と同時期に開催される親の会国際組織の国際小児がんの会(CCI)年次総会への参加を公募で募る派遣事業を、小児がん患児の親及び小児がん経験者を対象に実施してきました。本事業は、より多くの親や経験者の方々が国際的な小児がん患者・家族支援の活動に直接触れる機会を持つことにより、グローバルな視点で患者・家族支援活動とその使命について考えていただくことを目指しています。2024年6月22日～25日に横浜で開催された第16回CCIアジア大会では当会が開催国のホスト団体として運営に参画し、経験者9名が参加しております。また、2024年10月16日～20日にはアメリカのホノルルで開催された第30回CCI世界大会に、当会から評議員の園部かおるさんの参加と経験者1名の派遣を実施しました。

なお、CCIの加盟団体は、2024年10月現在93ヶ国183団体となり、活発な活動が続いている。

PHPF (Parents Helping Parents Fund)への協力

開発途上国等の国際小児がんの会(CCI/Childhood Cancer International)年次総会参加を支援するための基金「PHPF」に600ユーロの寄付を行いました。

9 奨学金事業(アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度)

当事業は小児がん患児に充実した学校生活を送ってほしいとの想いで設立され、2014年度より奨学金の給付を開始しました。2015年度より、がん遺児も対象に加えて奨学金を給付しました。なお、本奨学金制度の内容は下記の通りです。

*当事業についてはアフラック並びにアフラック社員の皆様及び全国の代理店(アフラック全国アソシエイツ会)の数多くの方々からご支援を受け運営しています。

対象者

- 18歳未満で小児がんを発症した経験者及び、がんにより主たる生計維持者を失った遺児で、経済的な理由で高校等の進学・修学が困難な方。
- 給付開始時に高等学校等に在学中の方。
- 申請時における前年度の世帯収入が当会の定める上限を超えない方。

対象となる教育機関

「高等学校」、「中等教育学校の後期課程」、「専修学校の一般課程及び高等課程」、「特別支援学校の高等部」、「高等専門学校」

給付金額

- 月額20,000円
- 対象となる教育機関で正規の最短修業期間。
- 奨学金の返還は原則不要。

2024年度実績

小児がん経験者:助成件数 77件(高1…21件、高2…26件、高3以上…30件)
 がん遺児:助成件数 320件(高1…58件、高2…109件、高3以上…153件)
 合計:助成件数 397件(高1…79件、高2…135件、高3以上…183件)
 給付金額:94,700,000円

10 ボランティアコーディネート・研修会

(1) ボランティアコーディネート

当会事業推進のために、本部事務所(東京)と大阪事務所で延べ326人(うちペアレンツハウスボランティアとして209名)からボランティア協力をいただきました。本年度は、会報発送作業をはじめクリスマスプレゼントの発送や国際小児がんデーキャンペーンの準備、ペアレンツハウスの環境整備など様々な活動を担っていただきました。また初めてボランティアの登録をされた方には研修を実施し、事業内容やボランティアとしての心構えなど理解を深めていただきました。



11 調査研究協力

2024年度の当会への調査研究に関する協力の依頼は2件あり、下記3件について調査研究委員長の承認が得られました。

研究名称	協力内容
小児がん領域における療養支援職種の育成に向けた研究 わが国の小児医療における 心理社会的支援に関するアンケート調査～親と子に向けたアンケート 田中 恭子先生 (国立研究開発法人 国立成育医療研究センター こころの診療科)	対象者：①小児がんをもつ子ども（6歳以上）とその家族、②小児がん以外の病気をもつ子ども（6歳以上）とその家族、③療養中ではない子ども（6歳以上）とその家族 方法：インターネットによるアンケート調査
「小児がんを治療する施設の在り方について：被医療者側の視点から」についてのアンケート調査 小田 慶先生 (新見公立大学副学長／岡山大学名誉教授)	対象者：小児がんの治療経験のあるがんの子どもを守る会会員 方法：アンケート調査用紙にて回答
小児がんの子どもおよび小児がん経験者の気持ちと親子関係に関する研究 菱ヶ江 恵子先生 (山口県立大学 社会福祉学部)	

12 年次大会

2024年6月9日（日）「ゲノム医療と小児がん治療」をテーマに年次大会を開催しました。本年度は会場とライブ配信のハイブリッドで開催し、約200名の方にご参加いただきました。講演については「のぞみ」219号・220号に前編・後編に分け講演録を掲載し、報告しました。

①講演

「ゲノム医療と小児がん治療」

東京大学医学部付属病院 小児科教授 加藤 元博先生

13 クリスマスプレゼント

がんの子どもを守る会では、治療や療養生活を送っているこどもたちへのクリスマスプレゼントを毎年、当会の全国21か所にある支部や、小児がんの親の会、経験者の会などを通して病院やご自宅に送っています。

2024年度も、全国の皆さま、企業の方、個人の方、またamazonのウィッシュリストを通して、こどもたちへ120件近いプレゼントを受け取せていただきました。おもちゃ、文具、帽子やぬいぐるみ、カードゲーム、絵本など多岐に渡る品が届き、皆さまからお預かりしたプレゼントは、当会の支部や、小児がんの親の会、経験者の会を通して医療機関や施設、ご自宅など全国75か所、約1,500人のこどもたちにお届けすることができました。

ご支援いただいた皆様

武州製薬株式会社、東京上野東ライオンズクラブ、エア・ウォーターメディカル株式会社、ニューエラジャパン合同会社、スタイリングライフルグループ、アフラック山形県アソシエイツ会事務局、子供地球基金事務局、及び大勢の個人の方々からも多数のプレゼントをご支援いただきました。

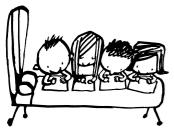
14 物品・ボランティアのご協力（敬称略・順不同）

物品寄付

アフラック青森県アソシエイツ会、アフラック秋田県アソシエイツ会、アフラックサンタボランティア、アフラック生命保険株式会社、アフラック東京コーポレートブロックアソシエイツ会、アフラック東京第一法人営業部、アフラックアソシエイツ会名古屋鳴尾郵便局有志、アフラック法人第五営業部首都圏金融法人支社、アフラック保険サービス株式会社、アフラック収納サービス株式会社、伊東 悠花、大橋 孝次、Okta Japan 株式会社、織田 喜一、織田 由佳、小野薬品工業株式会社、株式会社 大和証券グループ本社 サスティナビリティ推進部、株式会社 すぐろくや、株式会社 エヌアイ、株式会社 NX ワンビシーアーカイブズ、鎌田 幸子、河田 明子、橋田 えみ、菊池、木村 幸久、小松 仁、佐々木 真一、首藤、「すぐすぐ」網膜芽細胞腫の家族の会 千葉 加代、菅原 さとみ、ソフィー芸術出版株式会社 榎原 智子、第一三共ヘルスケア株式会社、第一生命保険株式会社労働組合都心マーケット営業室支部、第一生命保険株式会社あべの営業オフィス庄司 美喜子、第一生命保険株式会社本町事業所、大同生命保険株式会社奈良営業部、大和証券グループ、大和証券ファシリティーズ株式会社、高木 信隆、高遠 勲様・あい、田中 美郁、田村 みさ、Denis Japan 株式会社（日仏貿易株式会社）、土屋 健治、東京ガス星光会、中 弥生、日本データカード株式会社、浜岡 千枝子、富国生命保険相互会社、藤井 孝始、藤田 裕美子、bembooshimada.com、プリズーム岡田聖志、保険オフィスさとう、マルホ株式会社、三上 正美、水戸好文ロータリー、山北 めぐみ、吉原 美幸、横川 めぐみ

募金活動、他ボランティア活動

アフラック生命保険株式会社、IQVIA サービシーズ ジャパン株式会社、Okta Japan 株式会社 第一生命保険株式会社本町事業所、マルホ株式会社



寄付・募金者一覧

(2023年4月1日～2024年3月31日)

寄付・募金者一覧

寄付者一覧

※敬称略

ACワークス株式会社	アフラック鳥取県アソシエイツ会	大河原 貴	景山 高行	北東 恵子	コモテック	杉本 束
BAB CHARITY TOURING委員会	アフラック富山県アソシエイツ会	大木 賢子	笠原 秀幸	北東 宏亮	御領 純一	杉森 智子
株式会社 CES 緑研究所	アフラック長崎県アソシエイツ会	大久保 賢次	梶塙 由貴子	北村 善幸	近藤 博子	鈴木 京子
株式会社 Fast Fitness Japan	アフラック長野県アソシエイツ会	大久保 恵	梶山 太	つつきそいべっど@いがた	最所 健悟	鈴木 浩幸
Proclinical株式会社	アフラック新潟県アソシエイツ会	大蔵 隆彦	柏崎 光芳	北山 雅之	財津 兑典	鈴木 麻衣子
RBMC株式会社	アフラック沼津アソシエイツ会	大阪府宅地建物取引業協会 中央支部	柏原 郁子	吉祥寺 ひまり屋	齋藤 さゆり	鈴木 正洋
SCSK株式会社	アフラック浜松アソシエイツ会	社会福祉法人 大阪府母子寡婦福祉連合会	片山 麻子	キッコーマン株式会社	斎藤 孝	鈴木 麻由
愛知製鋼株式会社	アフラック姫路アソシエイツ会	大崎 誠	勝井 豊	木下 成顕	斎藤 秀子	鈴木 実枝
相羽 應毅	アフラック広島県アソシエイツ会	大塙 知孝	勝浦 広基	木原 陽佑	斎藤 文彦	鈴木 美智子
青木 康二	アフラック福井県アソシエイツ会	大島 日和	勝瀬 求	木村 幸久	齋脇 勇人	鈴木 優輔
青木 咲季子	アフラック福岡総合アソシエイツ会	大島 泰子	勝俣 花菜	きもべつ喜らめきの郷	酒井 あゆみ	須田 恵太
青木 聰美	アフラック福島県アソシエイツ会	大須賀 由香	桂 舞平	キヤノン株式会社	坂井 恵衣子	角田 紀子
青木 妙江	アフラック岐阜アソシエイツ会	太田 浩史	加藤 勝巳	キヤノンメディカルシステムズ株式会社	堺 久枝	住友商事株式会社
青木 嘉仁	アフラック町田アソシエイツ会	おおたかの森レモネードの会	加藤 鐵雄	九州大学病院	酒井 三貴子	医療法人すみれ会 中央病院
青森山田こども園	アフラック三重県アソシエイツ会	大滝 小織	加藤 友和	九電産業株式会社	榎原 章治	須波 清子
赤枝 良人	アフラック水戸アソシエイツ会	大谷 洋行	加藤 廣久	九電産業株式会社大分支店	榎原 悠児	税理士法人 松本
赤松 清茂	アフラック宮崎県アソシエイツ会	大塚 康行	加藤 佑弥	九電産業株式会社鹿児島	榎原 義夫	聖路加国際病院 本館
秋本 俊治	アフラック山形県アソシエイツ会	大塚 恵美子	金澤 佑季	九電産業株式会社北九州支店	坂田 朝	株式会社 聖路加コーポレーション
秋山 由美子	アフラック山口県アソシエイツ会	大塚 恒夫	金澤 零	九電産業株式会社熊本支店	坂年	閑幸子
秋山 由里子	アフラック山梨県アソシエイツ会	大坪 哲郎	金山 直司	九電産業株式会社佐賀支店	坂本 英治	閑澤 利加
株式会社 アコーセラミック	アフラック横浜支社	大仲 奈見	金子 武行	九電産業株式会社長崎支店	阪本 哲男	閑澤 欣也
浅岡 修世	アフラック横浜支社	大仲 雅和	金子 由紀子	九電産業株式会社宮崎支店	坂元 政博	閑沢 敏美
浅田 博司	アフラック横浜支社	大西 直之	金野 江里	共立インショアラス・プロカーズ株式会社	嵯峨山 聖子	世古 佐和子
浅見 美紀	アフラック横浜支社	大西 紀子	兼松株式会社	きらら保険サービス株式会社	佐久田 朝功	芹田 千晶
葦名 俊宏	アフラック横浜支社	大野城ライオンズクラブ	株式会社 グローウィング	株式会社 草むしり	櫻井 有紀	株式会社 ZEROPLUS
アストラゼネカ株式会社	アフラック青森県アソシエイツ会	大庭 英里子	株式会社 エミシェア	佐々木 あゆみ	株式会社 相建	
あすなろ投資顧問	アフラック秋田県アソシエイツ会	大場 学	株式会社 スズキ興産	佐々木 貴子	双日株式会社	
東 博行	アフラック旭川支社	大場 幸夫	株式会社 パーフェクトサンデー	佐々木 由紀子	園 克彦	
安雲 謙三	アフラック旭川支社	大橋 勝彦	株式会社 ライフコーポレーション	佐藤 伊織	反町 美奈子	
足立 塁一	アフラック横浜支社	大原小兒がん基金	株式会社 CFP	佐藤 清美	第一生命保険試合社 閑西コサルティング営業室	
アフラック横浜支社	アフラック青森県アソシエイツ会	大日向 翔	株式会社 K2インターナショナルジャパン	佐藤 精一	第一生命保険株式会社	
アフラック秋田県アソシエイツ会	アフラック宮崎県アソシエイツ会	大牟田デイシーライオンズクラブ	株式会社 PLUS ONE	久保 香	第一生命保険労働組合大阪南支部	
アフラック旭川支社	アフラック山形県アソシエイツ会	大森 早紀	株式会社 sante	久保田 一男	第一生命労働組合	
アフラック石川県アソシエイツ会	アフラック岩手県アソシエイツ会	大森 豊寛	株式会社 アイエステクノポート	窪田 正幸	第一生命労働組合浦和支部	
アフラック岩手県アソシエイツ会	アフラック愛媛県アソシエイツ会	大森 昌子	株式会社 アイビージェイ 様	窪田 貢	第一生命労働組合大阪北支部 大阪北支部	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	大山 弘毅	株式会社 梅原洋紙店	熊谷 則一	第一生命労働組合大阪北支部 大阪北支部	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	岡倉 幸子	株式会社 エイティー 阿知波 佳奈子	熊本歯科衛生士専門学院	第一生命労働組合大阪北支部 大阪北支部	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	岡崎 治子	株式会社 エヌアイ	倉敷中央病院がん相談支援センター	第一生命労働組合大阪北支部 大阪北支部	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	小笠原 友美	株式会社 エム・エイ	倉科 理枝子	第一生命労働組合大阪北支部 大阪北支部	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	岡田 里美	株式会社 九州サービス福岡	倉田 知展	第一生命労働組合大阪北支部 宝塚分	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	岡橋 俊行	株式会社 神戸製鋼所	栗原 大	第一生命労働組合大阪北支部	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	井上 彰子	株式会社 今与	栗山 真二	第一生命労働組合大阪北支部	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	井上 清美	株式会社 ブラメンテナス	栗山 宣夫	第一生命労働組合大阪北支部	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	井上 桂樹	株式会社 サン・フラックス	棚澤 静枝	第一生命労働組合大阪北支部	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	井上 順策	株式会社 テータシステム	暮部 勢子	第一生命労働組合大阪北支部	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	井上 妙	株式会社 トータル保険サービス	黒川 征治	第一生命労働組合大阪北支部	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	伊野波 斜俊	株式会社 西日本新聞プロダクツ	黒木 智	第一生命労働組合大阪北支部	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	井原 拓	株式会社 日商エイジエンサー	黒田 一史	第一生命労働組合大阪北支部	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	今井 淳之	株式会社 ハシオ	黒鳥 一恵	第一生命労働組合大阪北支部	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	今井 正之	株式会社 ピーエル	黒羽 薫	第一生命労働組合大阪北支部	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	今井 干千	株式会社 ピースワン	桑原 茉莉子	第一生命労働組合大阪北支部	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	今村 勝	株式会社 フタナ・インターナショナル	警視庁	第一生命労働組合大阪北支部	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	井村 律子	株式会社 定川製鋼所	小出 弘	株式会社 シー・エンデバー	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	井柳 和光	株式会社 リンクフロンティア	合井 美子	椎名 延年	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	入江 未唯	嘉麻市立嘉穂図書館	公益財団法人 毎日新聞東京社会事業団	椎原 春美	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	岡本 幸一	鎌田 政之	公益財団法人 お金をまわそう基金	CBC株式会社	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	岡本 幸一	神藏 栄市	公益財団法人 田中法人会	JFE商事株式会社	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	岡本 里美	亀井 加代子	甲佐ライオンズクラブ	JFEスチール株式会社	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	岡橋 俊行	亀井 優希	高知医療センター すこやかA	だいき動物病院 高橋 大記	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	岡部 真由美	鴨作 韶弥	河野 真理	大同特殊鋼 株式会社	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	岡部 美樹	刈谷 雅夫	河野 真	大理石・ロックハート城	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	岡村 有加里	軽部 裕美子	志賀浦 壮亮	多賀 哲男	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	岡本 幸一	川上 武則	重村 勇倫	高江洲 義尚	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	小川 純子	川上 友子	静岡雙葉中学・高校小羊委員会	高木 隆司	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	小川 忠吉	川口 弘二	篠田 章	高木 猛	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	小川 浩史	川越 智美	篠田 隆	高木 信哉	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	小川 光枝	川崎 由子	地場 亜紀子	高木 美嘉	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	荻野 虹輝	かわいしん友の会 会長 福本 広幸	柴田 和子	高木 明子	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	奥利 良昭	川田 大介	志賀浦 寧	高木 尊信	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	奥泉 淳一	カワダマユミ	志賀浦 壮亮	高遠 敏	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	Okta Japan株式会社	河内 トシ	島野 貴行	高橋 建太	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	奥平 耕一郎	河野 峰子	島野 忠之	高橋 晶子	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	奥野 達也	川藤 等	嶋崎 由貴	高橋 秀治	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	奥村 和徳	川又 幸夫	故選 正法	清水 惠理子	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	奥村 陽子	小玉 利昌	児玉 一昭	清水 信夫	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	宇田川 亨	河本 真由子	川又 智美	清水 佑輔	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	宇田川 亨	神原 直子	神部 淩我	しみずSBSヘルスクラブ	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	宇田川 亨	菊地 真貴子	故選 正法	志村 朱美	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	宇田川 亨	河野 真	故選 正法	下山 穂	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	宇田川 亨	川藤 等	故選 正法	社会福祉法人 大阪ボランティア協会	
アフラック大分県アソシエイツ会	アフラック大分県アソシエイツ会	宇田川 亨	川又 幸夫			



田中 達男	中野 澄枝	原田 浩次	又川 白実子	森 恵子	山崎 文之	有限会社 アイティーオー	飯塚カトトレアレオクラブ
田中 雄	永野 孝志	原田 忍	町田 修一	森 賢治	山崎 元子	有限会社 大瀧設備事務所	飯塚カトトレアレオLC
谷井 晃子	中野 信子	原田 康江	松井 真衣	森 康司	山崎 由貴	有限会社 キャピタル	津久井ライオンズクラブ
谷川 英士	中野 啓史	春田 七海	松浦 隆彦	森 陽子	山下 公輔	有限会社 コスマライフ	福井本丸ライオンズクラブ
谷口 真理子	長野 美紀子	伴 由子	松尾 登起子	森川 淳一	山下 美香	有限会社 タマテックラボ	ライオンズクラブ国際協会330-C地区キャピネット事務局
田淵 大介	中鉢 鈴子	半澤 秀紀	松岡 七海	森下 亮	山下 雄一	有限会社 ユーサン	ライオンズクラブ国際協会337-A地区
玉井 宏明	永原 勢津子	阪和興業株式会社	松川 景子	森田 千晶	山城 美好	有限会社 ライフ企画	ライオンズクラブ国際協会337-E地区
玉井 美穂子	中前 佑一	東山 ともみ	松坂 直美	森永 琴乃	山田 郁美	有限会社 ワナベフォトスタジオ	LIVE EMPOWER CHILDREN2024
玉川 京子	中村 一晴	樋口 明子	松崎 美奈	森本 万里子	山田 勝三	結和工業株式会社	ラッセル・インベストメント株式会社
丹下 裕加里	中村 和路	樋口 厚子	松島 直子	守屋 直緒	山田 英孝	ゆりのき台自治会	一般財団法人 緑風会
丹後 愛	中村 華菜子	火ノ川 好信	松田 恵子	森山 康基	山田 博子	横田 俊一郎	林 賀鳳
丹野 泰	中村 桂井子	水見 三佐子	松田 信夫	森脇 浩一	大和 健一	横幕 航平	陸 宇萍
筑前東部地区協会	中村 大介	株式会社 Human	松谷 佳代	モルガンスタンレー	ヤマトコーポレーション有限会社	吉井 真紀	レモネードスタンドFUKUSHIMAGATA
茅野 文穂	中村 真理	平 信義	松谷 智子	八重樫 智子	山野 正晴	吉岡 佑樹	レモネードスタンドinつながる市
千葉 真奈未	中村 伸光	平井 大士	松永 塞一郎	矢島 昭子	山部 智寿	吉川 和哉	レモネードスタンドinふくおか 実行委員会
中外製薬株式会社	中村 保浩	平井 康裕	松原 香織	安井 雄三	山室 達夫	吉川 誠治	レモネードスタンドしまね
中外製薬労働組合 ぽけっと基金	有限会社 中村産業	平川 浩紹	松原 聖子	谷内 文弘	山本 章子	吉川 隆	有限会社 ロコバ
張 光陽	仲本 千佳子	平瀬 友博	松原 倫子	柳澤 隆昭	山本 郁江	吉木 美満	若本 和枝
長 祐子	中山 あすか	平野 美紀	松村 伸子	矢野 瑠子	山本 榮子	吉田 珍珠	渡辺 千香江
丁田 美奈子	中山 千絵	平山 忠之	松本 登紀子	矢野 良直	山本 勝利	吉田 馨	和田 敏和
調布市 福祉保健部健康推進課	中山直明	比留川 理絵	松本 陽代	八幡熊手郵便局	山元 千秋	吉田 恵子	ワタキユーセイモア株式会社
蝶理株式会社	株式会社 なゆた	廣澤 良一	眞鍋 三恵	ヤフー株式会社	山本 直史	吉田 利承	綿名 慎
ツアン ユエンシュエン	奈良 知洋	アリーダ・ラーマン	丸谷 杏菜	山内 順子	山本 信江	吉田 義	渡邊 綾子
ツーサン株式会社	成澤 ともえ	株式会社 ファンコミュニケーションズ	丸谷 由美子	山内 正成	山本 麻衣	吉田 雄平	渡邊 亜由美
津金 典子	名和 久子	株式会社 Fortune KK	丸紅株式会社	山内 悠碁	山本 真未	吉田 優莉	渡部 真澄
月岡 千明	倪 金壘	フォローウィンド 株式会社	マルホ株式会社	八巻 恭治	山本 万里絵	吉田 裕美子	渡邊 万里
月田 誠一	新妻 亮平	深田 久典	マルホ発條工業株式会社	山口 利子	Yamamoto Yoko	吉野 智子	渡邊 三瑛
有限会社 築地につしん太助	新村 昌弘	福井 渉	丸山 孝則	山崎 麻乃	山本 陽太	吉村 やか	渡辺 理緒
辻 尚人	西 正	福井県健康福祉部保健予防課	丸和バイオケミカル株式会社	山崎 聰	有限会社 松田興業	米倉 邦子	渡會 洋子
辻子 真一	西 牧子	福岡中央ライオンズクラブ	三浦 厚子	山崎 淳士	有限会社 幸智福祉社	穂波ライオンズクラブ	
辻中 彬人	西江 真由美	福岡徳洲会病院	三浦 公嗣				
辻林 温子	西川 健太郎	福島 初史	三浦 浩幸				
土橋 奈穂子	西川 修平	福島県立医科大学附属病院	三上 悅子				
土屋 扶美代	西田 昭子	福田 雅旨	三上 俊悟				
坪田 起久恵	西田 厚志	福田 佳子	三川 勝夫				
手島 健太	西田 知佳子	福地 誠一郎	三木 聖子				
寺田 駿太	西合 真民	福永 純恵	三澤 易功子				
寺田 昌史	西出 稔	フクムラ アヤカ	三澤 文博				
照井 美穂	西村 和真	富国生命保険相互会社 名古屋支社	水代 富雄				
電気事業連合会	西村 恵	富国生命保険相互会社	三田 幸枝				
株式会社 トアリリンクス	西村 桃佳	阪井 雅子	三井物産株式会社				
東京医療学院大学	仁田原 今美	藤井 由美	光藤 祥子				
東京都立小児総合医療センター	株式会社 日幸金属工業所	藤枝 由紀	三橋 昌範				
東京マリオットホテル	日鉄物産 株式会社	藤川 京子	三橋 美緒				
東京メディアカルライオンズクラブ	二宮 和子	藤崎 弘之	三菱商事株式会社				
東條 彩乃	日本医科大学千葉北総病院	藤澤 裕子	三菱電機株式会社				
東城 千春	日本製紙連合会	藤田 志麻子	三戸 渉				
東西 美沙子	日本製鉄株式会社	藤田 久恵	御堂21俱楽部				
當山 美桜	日本郵便 山形県北部地区連絡会	藤田 秀明	水戸好文ローラリークラブ				
トータル コンディショニングスタジオトワジェム	日本郵便株式会社 福井県東部地区連絡会	藤田 安幸	南 肇				
トータルサポート	株式会社 ニヤクコボレーション	富士電機株式会社	宮浦 一輝				
渡海 至康	庭前 裕樹	藤井 功二	宮城 順				
砥上 裕枝子	認定特定非営利活動法人 朴の会	藤平 一雄	都 寿莉				
徳永 真一郎	布谷 ひなの	株式会社 フジヘルスプランニング	宮里 裕子				
徳野 文朗	沼田 聰美	藤村 正	宮澤 敦子				
土手 多喜子	根岸 加余子	藤村 瞳	宮下 倫也				
殿畠 正生	ノイエス株式会社	藤本 慎介	宮宅 秀幸				
トピー工業株式会社	直方郵便局 窓口営業部	藤本 敏彦	宮野 瑞月				
富岡 晶子	直方ライオンズクラブ	藤山 優子	宮の台幼稚園フェスティバル委員会				
友永 恵子	野口 泰昭	武州製薬株式会社	原原 伽奈				
富山福祉短期大学	野田 文美	普通鋼電炉工業会	宮本 里美				
豊田 純子	野々山 友	ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社	宮本 成人				
豊田通商株式会社	ノバルティスファーマ 株式会社	小児がんプロジェクト 代表 田中那奈	宮本 ゆかり				
豊田通保険パートナーズ株式会社	延 浩子	フルデンシャル生命保険株式会社 福岡支社	向井 和美				
吉田屋 トライム	野村 博	普連土学園宗教委員会	向井 健人				
トライボランティア連合	芳賀 早百合	文京区	向川 茂				
内藤 健太	羽賀 洋一	平地 洋介	むしフェスティバルin福島				
内藤 龍平	秋原 明子	別所 文雄	武藤 敦子				
直川 隆久	橋立 道生	橋詰 直毅	村上 大				
中井 紗希	橋本 恵	株式会社 へるす出版	村上 智香				
永井 美和	馬上 星一	ペルテックトレーディング株式会社	村上 久幸				
永井 崇	馬上 豊	株式会社 ベルライフ	村上 道子				
中尾 憲治	長谷川 友美	逸見 仁道	村越 美香				
中川 祐美	初鹿 かつら	何 沐霏	村瀬 はるみ				
中米 千恵	八田 英治	何 倆倫	村田 翔				
長坂 真弓	服部 忠	何 雨霏	村松 愛				
長崎 真	馬場 宏治	許 南浩	村松 毅				
中澤 和男	濱克彦	株式会社 星企画	村山 将人				
長澤 一成	濱 雄司	保科 豊	村山 優子				
長沢 和久	浜谷 秀季	細田 裕美	室谷 哲哉				
中澤 弘美	濱 麻人	佛坂 智仁	黒 正規				
中島 悅子	早川 晶	ほのぼのサロン	メイカル・モバイル・コミュニケーションズ合同会社				
中島 恵子	早川 英子	堀 玲子	モウリ サトシ				
中島 翠	林 昭子	堀江 荏子	毛利 将吾				
中島 美穂	林 英尉	堀川 哲男	李尾 香予子				
中島 泰子	林 恵利	堀越 拓視	望月 由衣				
長瀬産業株式会社	林 俊次	堀協 澄俊	元田 雅弘				
中田 敦士	林 志郎	前田 一帆	本松 桂子				
中田 巧	原田 圭祐	前谷 佳代子	森 克嘉				
永富記念病院		増田 雅史	森 佳奈				

森 恵子	山崎 由貴	有限会社 アイティーオー	飯塚カトトレアレオクラブ
森 賢治	山崎 由貴	有限会社 大瀧設備事務所	飯塚カトトレアレオLC
森 康司	山崎 由貴	有限会社 キャピタル	津久井ライオンズクラブ
森 陽子	山下 公輔	有限会社 コスマライフ	福井本丸ライオンズクラブ
森川 淳一	山下 美香	有限会社 タマテックラボ	ライオンズクラブ国際協会330-C地区キャピネット事務局
森下 亮	山下 雄一	有限会社 ユーサン	ライオンズクラブ国際協会337-A地区
森田 千晶	山城 美好	有限会社 ライフ企画	ライオンズクラブ国際協会337-E地区
森永 琴乃	山田 勝三	有限会社 ワナベフォトスタジオ	LIVE EMPOWER CHILDREN2024
守屋 直緒	山田 英孝	結和工業株式会社	ラッセル・インベストメント株式会社
森山 康基	山田 博子	ゆりのき台自治会	一般財団法人 緑風会
森脇 浩一	大和 健一	横田 俊一郎	林 賀鳳
モルガンスタンレー	ヤマトコーポレーション有限会社	横	